

全国ルール統一研修会 (2022年)



期 日：2022年2月12日（土）

場 所：パナソニックリゾート大阪 / オンライン

主 催：（公社）日本ホッケー協会 技術委員会

共 催：（一社）ホッケージャパンリーグ



競技強化支援事業

独立行政法人日本スポーツ振興センター



目次

開催要項	1
日 程	2
参加者一覧	3
競 技 部	4
審 判 部	1 6
新登録システム	2 3
2022 国内競技会	2 8
インドアホッケー	2 9
質問・要望の回答	3 1

開 催 要 項

2022年1月25日

- 1 目 的 2022年度の日本ホッケー協会主催・共催大会、ホッケー日本リーグ、地方大会(予選会を含む)が、スムーズに運営され、ホッケー競技が益々普及発展していくために、競技規則、競技運営規程等の共通理解を深めるとともに、関係各位の意見交換を行うことを目的とする。
- 2 主 催 公益社団法人日本ホッケー協会 技術委員会 / 一般社団法人 ホッケージャパンリーグ
- 3 参加対象 各ブロック競技長・審判長/各関係団体競技規則・審判担当(1名必須・兼務可)/2021年度ホッケージャパンリーグ加盟チーム(2名まで可)/A級公認審判員(50歳未満)/A級講習会受講者(2019年度)/TD(技術委員長指名)/TO(技術委員長指名)/UM(技術委員長指名)/強化本部男女代表者及び年代別カテゴリー代表者/技術委員会各委員/技術委員長推薦者
※各ブロック競技長・審判長の代理者を出席させる場合は、必ず伝達講習を行える人材であること。
- 4 講 師 技術委員会 審判部・競技部・総務部
- 5 日 時 2022年2月12日(土) 9:00~13:00
- 6 開催方法 会場での参加またはオンライン参加によるハイブリット方式で開催します
- 7 会 場 パナソニックリゾート大阪(別紙地図参照)
(宿 舎) 〒565-0802 大阪府吹田市青葉丘南10-1 Tel 06-6877-0111 Fax 06-6877-0504
オンライン参加者には事前にアクセスURLをご連絡いたします。(Zoom利用予定)
- 8 内 容 (1) 2022年度 競技規則・競技運営規程及び国内大会レギュレーションについて
(2) ルールの改訂点とその解釈について
(3) アンパイアリングの統一とアンパイアの技術向上について
(4) 2022年度 施設用具関係・アンチドーピングについて
(5) 各ブロック・各団体との意見交換
(6) ビデオ映像を利用した研修 他
- 9 集 合 2022年2月12日(土) 8:50 パナソニックリゾート大阪〔会場参加者〕
- 10 受講料 オンライン参加の方は無料
会場参加の方は5,000円。(大変申し訳ございませんが、会場費等が発生しておりますのでご了承ください。)
※交通費及び受講料は、個人または各ブロック・所属団体負担
- 11 受講方法申込 オンラインでの参加か会場来場による参加について、下記URLより2022年1月26日(水)17:00までに再度必ず申込ください。
<https://forms.gle/mhmvG7usH8cjVhVL9>
 - ・職場や学校からはgoogleフォームへのアクセスを制限している場合があります。その際は、家庭やスマートフォンからアクセスいただく等ご協力をお願いします。
 - ・回答後に変更が生じた場合は、再度回答してください。※前泊を希望される方は、宿泊費は一般社団法人ホッケージャパンリーグが負担いたします。
(2月12日の朝食は付いておりますが、11日の夕食は各自でお願いいたします)
- 12 その他
 - ・紙ベースの資料は、配布いたしません。資料は参加者に事前に送信いたします。
 - ・ルールブック、ハンドブックの印刷物は作成いたしません。日本協会のホームページからダウンロードしてください。
 - ・オンライン参加をご希望の方々には会議URLを追って送付いたします。
 - ・このルール統一研修会は、競技強化支援事業助成金を受けて開催されています。
- 13 問 合 先 壽山由樹(技術委員会ルール研修会担当)

2022年 全国ルール統一研修会 日程

1. 日時 2022年2月12日(土)9:00～13:00
2. 場所 パナソニックリゾート大阪
3. 講師 千野 雅人 (技術委員会委員長)
 藤村 利道 (技術委員会副委員長)
 安枝 和子 (技術委員会副委員長)
 森 義彦 (技術委員会競技部長)
 西澤 英一郎 (技術委員会競技部副部長)
 近藤 聡史 (技術委員会審判部部長)
 藤原 信幸 (技術委員会審判部副部長)
 栗原 崇 (技術委員会競技部員)
 小原 直也 (技術委員会審判部員)
 真 喜代司 (技術委員会アドバイザー・元技術委員長/HJL理事長)
- ※事前準備・研修会記録・会場設営・受付・その他……研修会担当: 壽山 由樹/福島雄裕

4. 時程

時 間		内 容		講 師 及 び 担 当 者
2月12日(土) < 司会進行…壽山 由樹 >				
(時刻)		(所要時間)		
9:00	9:05	0時間05分	★開会あいさつ	HJL理事長:真 喜代司
9:05	10:05	1時間00分	競技部より コロナ対策指針と競技会運営 施設用具関係 ハンドブック 競技フィールド ユニフォーム規定 競技規則 競技運営規程 2022年適用するレギュレーション 公認競技役員規程	森 義彦 西澤 英一郎 栗原 崇 藤原 信幸
休憩 0時間10分				
10:15	11:25	1時間10分	審判部より アンチドーピング 21年のアンパイアリング、22年重点項目 21年度大会の反省	近藤 聡史 藤村 利道 小原 直也 藤原 信幸
休憩 0時間10分				
11:35	12:10	0時間35分	新登録システム 【質疑応答含む】	日本協会事務局長:坂本 幼樹 大日本印刷株式会社:高岡様
12:10	12:20	0時間10分	22年度の国内競技会	千野 雅人
12:20	12:55	0時間35分	質問要望事項に関する回答及び質疑応答 ※新登録制度は除く	(回答講師) 千野 雅人、藤村 利通 安枝 和子、森 義彦 近藤 聡史、西澤 英一郎 藤原 信幸、小原 直也 栗原 崇、真 喜代司
12:55	13:00	0:05:00	★閉会あいさつ	技術委員長:千野 雅人

参加者一覧

NO	所属団体	所属	氏名	NO	所属団体	所属	氏名	
1	HJL H1	LIEBE栃木	若林勝己	56	HJL official	HJL 競技役員	藤井明子	
2		岐阜朝日クラブ(BLUE DEVILS)	長屋恭一	57		HJL 競技役員	竹内芳郎	
3		立命館ホリーズ	松村誠	58		HJL 審判員	坪耕一	
4		天理大学男子部	穴井善博	59		HJL 審判員	児玉茂樹	
5		天理大学男子部	松田貴也	60		HJL 審判員	稲元南	
6		山梨学院大学	三澤孝康	61		HJL 審判員	西山宏明	
7		山梨学院大学	平井快樹	62		HJL 審判員	森田慎	
8		A L D E R 飯能	福島駿介	63		HJL 審判員	我妻順子	
9	HJL H2	表示灯フラーテルチーム	長澤克好	64		HJL 審判員	清水雅生	
10		BlueSticks SHIGA	山堀貴彦	65		HJL 審判員	戸塚洋介	
11		ヴェルコスタ福井	松村徹治	66		HJL 審判員	佐竹由加里	
12		ヴェルコスタ福井	内藤寛公	67		HJL 審判員	坪坂知佳	
13		小矢部RED OX	沼田秀樹	68		HJL 審判員 関東学連	成田健一	
14		小矢部RED OX	坪内一浩	69		HJL 審判員	大和田康一	
15		福井工業大学	渡邊宏樹	70		HJL 審判員 (会場参加)	野澤達	
16		駿河台大学	酒井友真	71		HJL 審判員	尾木典隆	
17		フリークス東京	多氣洋平	72		HJL 審判員	山田恵美	
18		東京農業大学	李永晃	73		HJL 審判員	小林哲也	
19		法政大学	坪通徳	74		HJL 審判員	堀詩以奈	
20	法政大学	深澤秀二	75	HJL 審判員		湯澤健人		
21	Selrio島根	安部隆史	76	HJL 審判員	湯澤望			
22	HJL 女子	ソニーHC BRAVIA Ladies	永井祐司	77	HJL official	HJL 審判員	堀江紀之	
23		コカ・コーラレッドスパークス部	信井康博	78		HJL 審判員	黒川大地	
24		南都銀行 (会場参加)	樋口修	79		HJL 審判員	山根真徳	
25		東海学院大学	小林和典	80		HJL 審判員	細川祐司	
26		東海学院大学	福居絵吏子	81		HJL 審判員	山岸有希	
27		グラクソ・スミスクラインO.U	渡邊あかね	82		HJL 審判員	木下英貴	
28		山梨学院CROWNING GLORIES	清水ひまり	83		公益社団法人 日本ホッケー協会	男子強化本部	高橋章
29		立命館大学	古瀬充奈	84			女子強化本部	新井麻月
30	天理大学	長谷部謙二	85	事務局長		坂本幼樹		
31	天理大学	永田紗穂	86	事務局員		安岡裕美子		
32	東京ヴェルディ女子チーム	藤尾香織	87	HJL	専務理事	福島雄裕		
33	駿河台大学女子部	久我晃広	88		副理事長	奥田好廣		
34	高体連・北海道協会	渡辺健一	89		理事長	真喜代司		
35	JHA 所属団体	中学校部会	久保克敏	90	技術委員会 オンライン参加者	アンチドーピング推進室	清水恭子	
36		マスターズ部会 (会場参加)	吉田隆明	91		アンチドーピング推進室	荻谷和代	
37	ブロック競技長	北海道	手倉森勇夫	92	技術委員会 会場参加者	競技部 国際担当	和田千恵子	
38		青森県協会	田鎖豊	93		審判部 役員養成担当	相馬知恵子	
39		長野県協会	柴田稔	94		審判部役員昇格担当 (会場参加)	中野典子	
40	ブロック審判長	愛媛協会	三好健一	95	技術委員会 会場参加者	審判部	西松孝治	
41		九州協会	一ノ瀬元史	96		競技部 大会運営担当 社会人連盟	小原直也	
42		山形県協会	鈴木茂明	97		審判部 役員養成担当	壽山由樹	
43	北信越協会	宮川敏充	98	審判部 役員昇格担当		竹内高広		
44	東海協会	重森誠	99	競技部 施設・用具担当		栗原崇		
45	徳島県協会 HJL審判員	柳田敏行	100	総務部 登録担当		藤原信幸		
46	島根県協会 HJL審判員	藤原真由美	101	総務部 副部長		高橋英行		
47	宮崎県協会	富山喜正	102	競技部 副部長		西澤英一郎		
48	HJL official	HJL 競技役員 ATD	今庄充世	103		競技部 部長	森義彦	
49		HJL 競技役員	高野禎	104		審判部 部長	近藤聡史	
50		HJL 競技役員	菊池玲子	105	副委員長	安枝和子		
51		HJL 競技役員	松原和朗	106	副委員長	藤村利道		
52		HJL 競技役員	梶田賢二	107	委員長	千野雅人		
53		HJL 競技役員	松原久					
54		HJL 競技役員	安木貴子					
55	HJL 競技役員	阿合勝美						

全国ルール統一研修会
 期日：2021年2月12～13日 会場：パナソニックリゾート大阪/ウエブ

技術委員会 競技部

地下灌漑システム

I 新型コロナウイルスと競技運営
 「感染しない、させない」行動 安全・安心な大会運営

- 常日頃から基本的感染防止対策
 手洗 マスク着用 3密の回避
- 大会での感染防止ガイドラインの遵守する
 健康チェック(大会前～大会後) 会場での動線
- 自治体、保健所、医療機関、施設管理者等との連携と協力をする
- プライバシーの保護には十分な配慮をする
- 誤解や偏見に基づく差別は行わない

多目的フィールド

II 施設用具
人工芝フィールドの経年変化

フィールド パイル材 衝撃吸収材	A公認フィールド(Wet10年目)			B公認フィールド(Wet10年目)		
	平均	min	max	平均	min	max
	ナイロン系 ロール系ショックパッド					
	ポルリバウンド (mm)					
要求値 100～400mm	345	292	380	510	480	530
偏差: ±10%		-15	10.2		-30	-20
	衝撃吸収率 (%)					
要求値 45～60%	49.0	37.0	54.0	38.1	35.0	44.2
偏差: ±5%		-12	5.0		2.1	6.1
	垂直変位 (mm)					
要求値 4～9mm		3.8	7.1		4.3	5.2
	靴底摩擦抵抗 (Nm)					
要求値 25～45Nm	17.8	16.6	19.4	27.0	26.0	28.0
偏差: ±5Nm		-1.2	1.6		-1.0	1.0

<フィールドの硬化、滑りやすくなる>
 ◆パイルの摩耗・脆化 ◆パイル抜け (基布の露出) ◆ジョイントの開き ◆人工芝面の不陸

仮設フィールド

サステナブルな取組み

	従来	現在の取組み	今後
人工芝素材	石油由来ポリエチレン	植物由来(サトウキビ) ポリエチレン <バイオベースリサイクル 約60%>	
散水量	3.0mm ウエットタイプ	1.0～1.5mm 減水タイプ	ドライタイプ
散水	地下水・飲料水	水のリサイクル (水の循環、雨水の利用)	
灌漑方法	地上灌漑	地下灌漑	
多目的化	専用フィールド	多目的フィールド 仮設フィールド	
人工芝の廃棄	埋め立て サーマルリサイクル	マイクロプラスチック問題	マテリアルリサイクル ケミカルリサイクル

仮設フィールド構造

バックネット

バックネット（ランオフの外側）の高さ		
観客等が入る場合 (人が通るような場合等)	バックライン側ランオフ	H7.0m以上
人が立ち入らない場合	シューティングサークルの内側	H4.5m以上
	シューティングサークルの外側	H3.0m以上
サイドネット（ランオフの外側）高さ		
	サイドランオフ	H1.0m以上

ソックス セパレートタイプ

くるぶし部分が違う色となっておりユニフォームとして揃っていない	下まで降ろされており、若干違う色が見えるが目立たない	くるぶし部分が同系色となっている

テクニカルテーブルの位置

ジャッジ(スコアボード、記録)

※TOとジャッジのやり取りは審判と別系統の無線を利用

ソックス その他

●その他

脛当てがソックスから出ている	脛当てがソックスの中に入ればかつ下のソックスが同色となっている	脛当てを支えるために違う色のテーピングを使用している	同色テーピングを使用又は同色に塗りつぶしている

公認競技役員ポロシャツ

購入・問合せは、下記の公認事業者までお願いします。
 ・株式会社 ビッグバン ・326株式会社 ・株式会社 Majestic Plan

- 上記公認事業者が製造販売(各社仕様や金額が違います)
- 随時注文を受付
- 納期まで約1ヶ月
- 金額 3,330~4,000円(送料代引き手数料別)

ソックス 依頼事項

- 着衣時**
 - 下部分をカットしたソックス着用時には、足首から下のソックスは可能な限りソックス又はシューズと同色系のものを着用
 - テーピング等で脛当てを止める必要がある際は、ソックスの内側又は、同色系のテーピング(又は塗りつぶす)を使用
- 試合開始前及び交代時**
 - ソックスは膝をしっかりとし出す高さで着用
 - 下部分をカットしている場合には可能な限り下げ、脛当てを完全に覆う事

III 競技規則・運営規程等

ソックス

●履き方のタイプ

ノーマルタイプ	ニーハイトタイプ	ルーズタイプ	セパレートタイプ
OK	NG	NG	NG

競技運営規程
ユニフォーム規程

- ユニフォームは揃っていて、整然としていなくてはならない。
- 膝にかかるように着用することは認められない。
- ソックスの下にすねあてを試合中常時着用しなければならない。

1 ホッケー競技規則

- ホッケー競技規則の改定**
 - 2022年度は新規のホッケー競技規則の発行は行わない
 - 以下の変更が行われる
- 2.2 チームの構成: 強制的実験規則の削除
- 4.2 プレイヤーの服装と装備: ペナルティコーナー時の守備側の防具
- 6.5 試合の開始と再開: プリーについて
- 9.10 プレイの細則: 上げられたボールについて
- 13.5 罰則の実施手順: ペナルティコーナー完遂条件

2 ホッケー競技規則

- 2.2 チームの構成: 強制的実験規則の削除
 - 2019年1月1日から施行の強制的実験規則: チームは、ゴールキーパーの特権をもったプレイヤーを使うというオプションは持てないこととする。
 - 上記は削除され、全てのチームはフル装備の防具を身に着けたゴールキーパーを置くか、フィールドプレイヤーのみでプレイすることができる。
- 4.2 プレイヤーの服装と装備: PC時の守備側の防具
 - 守備者がPC用の防具を取り外す適切な機会が無かった場合、23mのエリア内にいる間、ペナルティ無しで防具を着用し続けることができる。すべてのプレイヤーは、23mのエリアから出る前、または審判から指示されたときに、すべての保護具を外さなければならない。

3 ホッケー競技運営規程

- 付属書1 ホッケー競技規則に優先する項目:
 - 5.6 攻撃側のプレイヤーの遅延行為による個人的罰則が与えられた場合の対応
 - 5.5 遅延行為による個人的罰則が守備側プレイヤーに与えられた場合は、そのペナルティコーナーおよびその後の連続して実施されるペナルティコーナーは、1人少ない人数で守ることになる。もし当該プレイヤーが守備側のGKの場合は、そのペナルティコーナーは1人少ない人数で守ることになるが、個人的罰則は、他の守備側プレイヤーに科す(守備側チームが罰則を受けるプレイヤーを守備についているフィールドプレイヤーの中から選択できる)。
 - 5.6 遅延行為による個人的罰則が攻撃側のプレイヤーに与えられた場合、そのプレイヤーが除かれた状態で、ペナルティコーナーは実施される。

3 ホッケー競技規則

- 6.5 試合の開始と再開: プリーについて
 - ペナルティコーナー実施中、プリーが与えられた場合ペナルティコーナーが再び与えられる。
- 9.10 プレイの細則: 上げられたボールについて
 - 落下地点でレシーブしようとしている選手に対し、5mより離れた地点から近づいてボールをインターセプトすることができる。ただし、選手同士がプレイ可能範囲内で無いことかつ安全にプレイできる状態であること
- 13.5 罰則の実施手順: ペナルティコーナー完遂条件
 - 6.5の変更に伴い、ペナルティコーナー完遂条件から「g. プリーが与えられた時。」が削除される。

4 ホッケー競技運営規程

- 付属書3 シュートアウト戦: 12 フライング時の対応
 - 12 シュートアウトの実施方法は下記のとおりとする。
 - (ア)・・・(カ) 両プレイヤーはどの方向に動いてもよい。
 - (キ) シューター又はGK又は守備を行うプレイヤーが、アンパイアが笛を吹く前にプレイを開始した場合、シュートアウトはやり直しとなる

1 ホッケー競技運営規程

- 13.5 棄権・失格: 不可抗力条項追加
- 付属書1 ホッケー競技規則に優先する項目: 5.6 攻撃側のプレイヤーの遅延行為による個人的罰則が与えられた場合の対応
- 付属書3 シュートアウト戦: 12 フライング時の対応
- 付属書6 サジェスションアンパイア及びビデオアンパイア:
 - 3.16 チャレンジ権の維持又は喪失の明確化

5 ホッケー競技運営規程

- 付属書6 サジェスションアンパイア及びビデオアンパイア:
 - 3.16 チャレンジ権の維持又は喪失の明確化
 - 3.16 チャレンジ権の維持または喪失は以下のとおりである
 - a. 判定が認められた場合又は有利な判定となった場合は、チャレンジ権は維持される
 - 例: 攻撃側: 判定をされなかった事をチャレンジ→PC/PS/ゴール: 維持
 - 攻撃側: PCをチャレンジ→PS/ゴール: 維持、PC: 喪失
 - 守備側: ゴールをチャレンジ→PC/PS: 維持
 - 守備側: PCをチャレンジ→FH: 維持、PC/PS/ゴール: 喪失
 - b. ノーアドバイスの場合は、チャレンジ権は維持される
 - c. アンパイアの判定を変更する明確な理由がない場合は、チャレンジ権は喪失する

2 ホッケー競技運営規程

- 13.5 棄権・失格: 不可抗力条項追加
 - 13.5 不可抗力の事象によって、試合を実施または完了できない場合、チームは棄権したものとみなされない
 - 13.6 不可抗力の事象とは、予測不可能で避けがたく、チームによって回避不可能な事象であり以下を含むが、これらに限定されない。
 - a 自然災害(火事、爆発、地震、干ばつ、高潮、洪水など)。
 - b 戦争、侵略、敵対国家の行為等。
 - c 暴動、騒動、ストライキ、ロックアウト等
 - d テロ行為;
 - e 政府または政府当局の行為(法令、条例による移動制限等)。
 - f コロナウィルス感染拡大防止に関連する、JHA、大会組織委員会、自治体による規制(大会運営規程に明記されてる)

その他 ジャッジの人数について

- 2022年度からすべての全国大会及び日本リーグにおいて、現行の3人体制から2人体制にする。
 - スコアリングジャッジ: 公式試合記録の作成
 - タイミングジャッジ: 試合時間の計測
 - 退場者やけが人の退場時間の計測はキッチンタイマー等は使用せず
 - 試合時間の記録により実施する。(補助的にキッチンタイマーの使用は可)
- 会場によりスコアボード等の固有の操作が必要な機器がある場合、補助的な役割として、追加でオペレーター配置することができる。
- 試合前に担当TOと役割について確認すること。
 - TOは不測の事態に備えてストップウォッチを使用することを推奨
 - 退場者の再入場タイミングについては今までと変わらずTOが責任を持つ

公認競技役員規程 2022年改訂のポイント

①（公認競技役員の認定手順）

【改訂前】

第8条2項 (TO) JGの資格を有し、(中略)認定する。またA級引退者で、TO講習会を受講した者を資格審査室が審議してTOとして認定する。
第8条13項 A級は引退する時点(自己申告)で、TO講習会の受講資格を資格審査室で審議のうえ付与する。

【改訂後】

第8条2項 (TO) JGの資格を有し、(中略)認定する。またA級(過去にA級資格を有していた者も含む)で、競技部長の指名によりTO講習会を受講し、TOとしての資質が認められると責任講師から上申された者を資格審査室で審議してTOとして認定する。
削除

【解説】

これまでの規定では、A級は引退する時点でTO講習会の受験資格を資格審査室の審議の上、付与することとしていたが、A級または過去にA級資格を有していた者で、競技部長の指名により講習会を受講できる(意欲・資質のある人材がよりTOを取得しやすい)形に変更した。A級引退者で、競技部長の指名を受けることができない場合でも公認テーブルオフィシャルを目指す場合、(第8条13項によりJG資格は資格審査室で審議のうえ認定されるため、所属ブロック競技長の推薦を受け)TO昇格試験から受講すればよい。

②（資格の失効および剥奪および抹消）

【改訂前】

(資格の失効および剥奪および抹消)
第13条 公認競技役員は、(中略)返還しない。

【改訂後】

(資格の失効)
第13条 公認競技役員は、(中略)返還しない。
(資格の剥奪および抹消)
第14条 公認競技役員は、(中略)返還しない。

【解説】

これまでの規定では資格の「失効および剥奪および抹消」を併せて定めていたが、資格の「失効」と「剥奪および抹消」を分けて定めることとした。これによりこれまでの第16条の規程により資格の失効について、本人が希望する場合は弁明の機会を設け救済措置を講じていたが、今後は第12条で定めた「有効期間と更新手続き」により、更新手続きの処理を怠ると資格が失効する。(その場合救済措置はなく、再度競技役員資格を取得しようとする場合は、それまでの実績は喪失されたものとして扱うこととなる。)

公認競技役員規程 2022年改訂のポイント

③（公認競技役員の認定手順）

【改訂前】

第8条15項 審判員資格の公認競技役員の資格認定にあたり、被認定者が未成年の場合は、親権者の同意書を必要とする。また、18歳未満の者には審判員資格を認定しない。

【改訂後】

第8条14項 公認競技役員の資格認定にあたり、被認定者が未成年の場合は、親権者の同意書を必要とする。

【解説】

審判員だけでなく公認競技役員の未成年の資格認定について、『全国ルール統一研修会』後に開催予定である『ブロック競技長・審判長会議』内において協議し、未成年者でも資格認定が可能とすることとした。

④（公認競技役員引退者の扱い）

【改訂前】

第17条1～5項

【改訂後】

第18条1～5項

【解説】

公認審判員だけでなく、公認競技役員引退者の活動範囲について定めたが、引退者として活動するためには更新手続きを行わなければならない。

～ お 願 い ～

『2021年度の競技役員・チーム登録締切日について』

2022年2月7日にJHAのホームページに掲載されておりますが、**2021年度の登録締切日は、2月28日(月)までです。**

各都道府県、ブロック協会内で未登録(更新)の方がいらっしゃいましたら、早めに手続きをお済ませいただきますようお願い申し上げます。

締切日以降の登録は受け付けることができず、資格は失効となります。また再度競技役員資格を取得する場合は、それまでの実績は喪失されたものとして扱います。

公認競技役員規程（案）

2016年4月1日制定

2022年4月1日改訂

(6次改訂)

主要変更箇所(2022.4)

(目的)

第1条 この規程は、公益社団法人日本ホッケー協会（以下「JHA」という）が認定する競技役員¹の地位の確立と責任の範囲の明確化を目指すとともに、技能向上や円滑な大会運営を図るために必要な事項を定めることを目的とする。

(用語の定義)

第2条 この規程において、次の各号に掲げる用語の定義は、当該各号に定めるところによる。

1. 公認競技役員 第3条によって区分される資格を有する者をいう。
2. 公式試合 JHA、ブロック協会、都道府県協会、一般社団法人ホッケー・ジャパニリーグ、日本社会人ホッケー連盟、日本学生ホッケー連盟およびその傘下団体のブロック学生連盟、全国高等学校体育連盟およびその傘下団体のブロック・都道府県高等学校体育連盟が主催または共催する大会でホッケー競技規則（6人制含む）に基づき実施される試合をいう。
3. 全国大会 JHAが主催または共催する大会。

(公認競技役員資格の種類)

第3条 公認競技役員資格は、その活動範囲、必要な資質・技能に応じて次のとおり設置する。

1. テクニカルデリゲート（以下「TD」という）
2. テクニカルオフィサー（以下「TO」という）
3. ジャッジ（以下「JG」という）
4. アンパイアマネージャー（以下「UM」という）
5. 国際審判員
6. A級公認審判員（以下「A級」という）
7. B級公認審判員（以下「B級」という）
8. C級公認審判員（以下「C級」という）
9. D級公認審判員（以下「D級」という）
10. サジェスションアンパイア
11. ビデオアンパイア
12. インドア公認審判員（以下「IU」という）

なお、上項1から3までを公認テーブルオフィシャル、5から12までを公認審判員と総称する。また、公認競技役員は必ずどこかの都道府県協会に所属し、所属協会は、居住地または勤務地の位置する都道府県協会か都道府県協会の役員である場合はその協会とする。

(公認競技役員の資質)

第4条 公認競技役員資格を有する者に求められる資質を次のように定める。

1. TDは、競技会の運営・競技運営規程・競技規則・審判に関する知識を熟知し、競技会を統括する見識・技能を有し、公認競技役員の模範となり指導を行い得る見識・技能を有する者。
2. TOは、競技会の運営・競技運営規程、競技規則・審判に関する知識がありTDを補佐する見識・技能を有し、試合を円滑に運営、管理するための十分な見識、技能を有する者。
3. JGは、大会の競技運営規程、競技規則に関する見識を有し、公式試合記録の作成およびTOと協力し試合の運営、管理を行い得る者。
4. UMは、大会およびホッケーに係わる活動を通じて、審判員の育成指導、評価、支援を行い得る見識、技能を有し、競技規則およびその解釈に対する解明が行える者。
5. 国際審判員は、公認審判員の資格を有する者のうち、国際ホッケー連盟（以下「FIH」という）により国際審判員資格を認定された者。
6. A級は、国際試合の審判を行い得る見識、技能を有し、公認審判員の模範となり得る者。
7. B級は、全国大会の試合の審判を行うに十分な見識、技能を有する者。
8. C級は、公式試合の審判を円滑に行うための必要な知識、技術を有する者。
9. D級は、公式試合の審判を行い得る者。
10. サジェスションアンパイアは、公式試合のサジェスションアンパイアを行うに十分な見識、技能を有する者。
11. ビデオアンパイアは、公式試合のビデオアンパイアを行うに十分な見識、技能を有する者。
12. IUは、インドアホッケーの公式試合の審判を行い得る者。

(公認競技役員に係わる役職の権限と責任)

第5条 公認競技役員の活動に係る役職の権限と責任は、次のとおりとする。

1. JHA 技術委員長（以下「技術委員長」という）は、公認競技役員を統括する。また、公認競技役員の活動環境の向上、技能向上、国内外への競技役員の派遣、関係規則の制定・定着等に係わる活動を監督し、そのための必要な指示を公認競技役員に行う。
2. JHA 競技部長（以下「競技部長」という）は、公認テーブルオフィシャルの技能向上、活動実績管理、活動者数の増加および競技会運営の円滑化等に資する必要な施策を策定し、ブロック競技長と共に実行する。
3. JHA 審判部長（以下「審判部長」という）は、公認審判員の技能向上、活動実績管理、活動者数の増加および競技規則・判定に係わる解釈の浸透等に資する必要な施策を策定し、ブロック審判長と共に実行する。
4. JHA 競技役員派遣室長（以下「競技役員派遣室長」という）は、全国大会に参加する競技役員を指名する。また、国民体育大会ブロック大会の TD、UM、ニュートラル審判員（ブロック外から派遣）を指名し、表-1 のブロック予選会におけるブロックが指名する TD、ニュートラル競技役員（TO、審判員）の通知を受ける。
5. JHA 資格審査室（以下「資格審査室」という）は、講習会等の受講者の成績、実績を踏まえて第 3 条に定める資格を認定または承認する。また、第 17 条に定める剥奪、抹消、降格、停止を決定する。
6. ブロック競技長は、所属ブロック内の公認テーブルオフィシャルへの指導、情報伝達、活動実績の把握、TO 昇格試験受験者の推薦、ブロック予選会（表-1）の TD、TO、JG の指名（JHA が指名した者を除く）、競技役員の発掘、その他競技部長の依頼する事項を遂行する。ブロック予選会（表-1）において、所属ブロック外から TD、TO を指名する場合は、競技役員派遣室長に通知する。
7. ブロック審判長は、所属ブロック内の公認審判員への指導、情報伝達、活動実績の把握、B 級昇格試験受験者の推薦、ブロック予選会（表-1）の審判員の指名（JHA が指名した者を除く）、審判員の発掘、その他審判部長の依頼する事項を遂行する。ブロック予選会（表-1）において、所属ブロック外から UM、審判員を指名する場合は、競技役員派遣室長に通知する。
8. 都道府県競技長は、所属都道府県内の公認テーブルオフィシャルへの指導、都道府県内大会の TD、TO、JG の指名、競技運営役員の発掘、その他ブロック競技長の依頼する事項を行う。
9. 都道府県審判長は、所属都道府県内の公認審判員への指導、C 級昇格試験、D 級認定講習会受験者の推薦、都道府県内大会の審判員の指名、審判員の発掘、その他ブロック審判長の依頼する事項を行う。
10. 上項 6 から 9 に定める役職は、ブロックまたは都道府県内の理事会等の承認手続きを経て決定されることが望ましい。
11. 上項 6 から 9 に定める役職者が交代する場合は、速やかに技術委員長に通知しなければならない。また、その役職者の本規程に定める権限は、通知された時点から効力を有する。
12. 上項 2 から 9 に定める役職者（5 を除く）の本規程に定める権限は、当該役職者がいずれかの競技役員資格を保有している場合に効力を有する。

（公認競技役員の責務）

第 6 条 公認競技役員に求められる主な責務を次のとおり定める。

1. 本規程に定める事項を遵守しなければならない。
2. 公式試合への参加に際しては、移動中も含め、定められた服装もしくは職務にふさわしい服を着用し、登録証を携帯しなければならない。審判を行うときは公認審判服を着用しなければならない。
3. TD は、大会の TD（アシスタント TD 含む）を 3 年間に 1 回以上担当しなければならない。または、公式試合の TO または JG を 3 年間に 8 試合以上担当しなければならない。
4. TO および JG は、公式試合の TO または JG を 3 年間に 8 試合以上担当しなければならない。
5. A 級は全国大会の試合の審判を 3 年間に 6 試合以上担当しなければならない。
6. B 級は全国大会、表-1 に定めるブロック予選会、日本社会人ホッケー連盟、日本学生ホッケー連盟およびその傘下団体のブロック学生連盟が主催する大会の試合の審判を 3 年間に 6 試合以上担当しなければならない。
7. C 級は公式試合の審判を 3 年間に 6 試合以上担当しなければならない。
8. TD、UM、A 級は、第 19 条に定める講習会を毎年受講しなければならない。TO、JG、B 級、C 級、D 級は、第 19 条に定める講習会を 3 年に 1 回以上受講しなければならない。
9. TD、TO、UM、A 級、B 級は、指定期日までに大会派遣希望調査に回答しなければならない。また、JHA の求めに応じて活動実績を報告しなければならない。
10. A 級、B 級は JHA が指定する体力測定を毎年 1 回以上実施しなければならない。
11. 国際公式試合の競技役員を担当する場合は、事前に技術委員長の承認を得なければならない。
12. 全国大会で TD に指名された者は、所定期日以内に大会報告書を JHA に提出しなければならない。
13. 公認競技役員は、JHA の指定する活動に協力しなければならない。
14. 公認競技役員は、競技会場において受動喫煙が生じないように細心の注意を払わなければならない。

(公認競技役員の活動可能範囲)

第7条 公認競技役員を行うことができる範囲は次のとおりとする。

1. TD は、公式試合が行われる大会の TD を担当できる。また、公式試合の TO、JG を担当できる
2. TO は、公式試合の TO、JG を担当できる。また、所属ブロック競技長の指名または承認により全国大会以外の大会の TD を担当できる。
3. JG は、公式試合の JG を担当できる。また、全国大会以外の試合の TO を担当できる。6人制の試合においては、全国大会の TO を担当できる。
4. A 級は、公式試合および技術委員長の承認により国際試合の審判を担当できる。さらに、取得後 10 年以上経過した者は、所属ブロック審判長の指名または承認により全国大会以外の UM を担当出来る。また、公式試合の JG を担当できる。
5. B 級は、公式試合および審判部長の推薦と技術委員長の承認により国際試合の審判を担当できる。また、公式試合の JG を担当できる。
6. C 級は、全国大会以外の公式試合の審判を担当できる。ただし、所属ブロック以外の場所で行われる試合の場合は、所属ブロック審判長の承認を要する。
7. D 級は、全国大会および表-1 に定めるブロック大会以外の公式試合の審判を担当できる。ただし、所属ブロック以外の場所で行われる試合の場合は、所属ブロック審判長の承認を要する。
8. サジェスションアンパイアは公式試合のサジェスションアンパイアを担当できる。
9. ビデオアンパイアは公式試合のビデオアンパイアを担当できる。
10. IU はインドアホッケーの公式試合の審判を担当できる。
11. 大会に参加するチームに登録されている役員、選手は所属するチームの試合の競技役員（JG を除く）を担当することができない。
12. 上項にかかわらず、6人制およびインドアホッケーの試合では全国大会含むすべての公式試合で C 級および D 級が審判を担当できる。
13. 上項にかかわらず、マスターズ（40 歳以上）の公式試合では C 級および D 級が審判を担当できる。
14. 上項にかかわらず、講習会または昇格試験受講中の競技役員は保有資格に関わらず大会 TD の指名する業務を担当できる。
15. 上項にかかわらず、日本国外から派遣された日本国籍を持たない競技役員は、技術委員長と大会 TD の承認により公式試合の競技役員業務を担当できる。

(公認競技役員認定手順)

第8条 公認競技役員資格の認定は、次のとおりとする。

1. (TD) TO 資格を有し、全国大会で十分な実績があり、技術委員会が指名した者は、表-1 の大会において TD を担当し、技術委員会の指定講師の審査により TD としての資質が認められるとして、責任講師から上申された者を資格審査室で審議して TD として認定する。
2. (TO) JG 資格を有し、全国大会およびブロック大会で実績がある者で所属ブロック競技長の推薦により TO 昇格試験を受験し、その試験により TO としての資質が認められるとして、責任講師から上申された者を資格審査室で審議して TO として認定する。また、A 級（過去に A 級資格を有していた者も含む）で、競技部長の指名により TO 講習会を受講し、TO としての資質が認められると責任講師から上申された者を資格審査室で審議して TO として認定する。試験および講習会の責任講師は、技術委員会の指名する講師でなければならない。
3. (JG) 所属都道府県協会の競技長の推薦により、ブロックまたは都道府県協会が主催するジャッジ認定講習会を受講した者で責任講師が認定した者を資格審査室が JG として承認する。講習会の責任講師は、技術委員会公認の認定講師でなければならない。講習会の開催について事前にブロック競技長の承認を得なければならない。
4. (国際審判員) 技術委員長の指名により FIH 主催または公認の国際大会に審判員として派遣され、国際審判員としての資質があるとの評価を TD から受けた者は、資格審査室の承認により JHA から FIH に国際審判員登録申請を行い、FIH で国際審判員として登録された時点で、資格審査室が国際審判員として認定する。
5. (UM) A 級または B 級で（過去に A 級または B 級資格を有していた者も含む）審判部長の指名により UM 認定講習会を受講し、UM としての資質が認められると責任講師から上申された者を資格審査室で審議して UM として認定する。講習会の責任講師は、技術委員会の指名する講師でなければならない。
6. (A 級) B 級保有者で、全国大会で十分な実績があり、JHA が公表する A 級審判員昇格候補者リストの中から指名され、JHA が開催する A 級審判員昇格試験を受講し、その試験により A 級審判員としての資質が認められるとして、責任講師から上申された者を資格審査室で審議して A 級として認定する。試験の責任講師は、技術委員会の指

名する講師でなければならない。

7. (B級) C級保有者でブロック審判長の推薦により JHA、ブロック協会または連盟が開催する B級審判昇格試験を受験し、その試験により B級審判員としての資質が認められるとして、責任講師から上申された者を資格審査室で審議して B級として認定する。試験の責任講師は技術委員会が指名する講師でなければならない。試験の開催について事前に技術委員長の承認を得なければならない。
8. (C級) D級保有者で、ブロック審判長または都道府県審判長の推薦によりブロック協会または連盟が開催する C級審判昇格試験を受験し、その試験により責任講師が認定した者を資格審査室が C級として承認する。試験の責任講師は、技術委員会公認の認定講師でなければならない。試験の開催について事前に技術委員長の承認を得なければならない。
9. (D級) ブロック協会、連盟、都道府県協会が開催する D級審判認定講習会を受講した者で、責任講師が認定した者を資格審査室が承認する。講習会の責任講師は、技術委員会公認の認定講師でなければならない。講習会の開催について事前にブロック審判長の承認を得なければならない。
10. (サジェスションアンパイア) A級、B級、C級、UM 資格保有者は、サジェスションアンパイアの資格を同時に保有するものとする。過去に A級、B級、C級資格を保有していた者で何らかの公認競技役員資格を保有している者は、サジェスションアンパイアの資格を同時に保有する。
11. (ビデオアンパイア) A級、B級、C級、UM 資格保有者は、ビデオアンパイアの資格を同時に保有する。過去に A級、B級、C級資格を保有していた者で何らかの公認競技役員資格を保有している者は、ビデオアンパイアの資格を同時に保有する。
12. (IU) A級、B級、C級、D級資格保有者は、インドア審判員の資格を同時に保有する。
13. A級、B級は引退する時点(自己申告)で、資格審査室で審議のうえ JG として認定する。認定にあたり、上記の講習会等の受講と認定料の納入を要しない。
14. 公認競技役員の資格認定にあたり、被認定者が未成年の場合は、親権者の同意書を必要とする。
15. 公認テーブルオフィシャルと公認審判員の資格をそれぞれの認定手順に従い受験又は受講することにより、同時に保有することを認める。

(公認競技役員認定証)

第9条 第8条に定める公認競技役員に認定され、第11条に定める登録手続きを完了した者に JHA から認定証を交付する。ただし、認定証の交付はデジタル登録証をもってこれに代える。

(公認競技役員登録証、管理)

第10条 新規に取得した資格の登録が完了した者にデジタル登録証を即時交付する。登録または更新の際に JHA に通知された個人に関わる情報は、JHA の円滑な運営を目的としてのみ利用される。目的の範囲内で業務委託先に提供する場合および日本国内の法令に基づく場合を除き JHA は個人情報第三者に開示・提供しない。公認競技役員は、登録情報を変更する場合は、JHA に速やかに通知しなければならない。公認競技役員が所属協会を変更する場合は、技術委員長の承認を得なければならない。

(登録手続き)

第11条 公認競技役員の新規登録手続きについては、次のように行う。

1. TD、TO、UM、A級、B級資格の登録手続き
資格審査室は認定後、新規登録申請書を JHA に提出する。その後、認定者に通知される案内に従い、認定者本人が新規登録手続きおよび認定料を納入しなければならない。資格審査室で認定された日を登録日とするが、指定期間内に新規登録手続きおよび認定料の納入がなされない場合は、認定を取り消す。
2. JG、C、D級資格の登録手続き
資格審査室は承認後、新規登録申請書を JHA に提出する。その後、認定者に通知される案内に従い、認定者本人が新規登録手続きおよび認定料を納入しなければならない。資格審査室から JHA へ新規登録申請がなされた日を登録日とするが、認定者本人が指定期間内に新規登録手続きおよび認定料の納入がなされない場合は、認定を取り消す。何らかの理由で、資格審査室が認定を承認しなかった場合は、認定は無効となる。
3. 認定料
各資格の新規認定料の金額は表-2 のとおりとする。
4. 配付物
各資格新規登録手続き後に次に定めるものを JHA より配付する。エンブレム、カード、リング等の資格に応じた必要物品は、各自で購入する。
TD : TD バッジ

- TO : TO バッジ
- JG : JG バッジ
- A 級 : A 級 バッジ
- B 級 : B 級 バッジ
- C 級 : C 級 バッジ

(有効期間と更新手続き)

第 12 条 公認競技役員（引退者を含む）の有効期間と年度登録（更新手続き）を次のように定める。

1. 競技役員資格の有効期間は毎年 4 月 1 日より翌年 3 月 31 日までとする。ただし、新規登録された資格は、登録日から次の 3 月 31 日までとする。
2. ブロック競技長および審判長は、都道府県競技長、審判長と連携して所属ブロックの公認競技役員の資格保有者リストの確認、修正を行い、必要に応じて JHA に通知しなければならない。
3. 競技役員は指定された期間内に定められた方法で更新手続きを行わなければならない。
4. 年度登録料は表-3 のとおりとする。複数の資格を保有している者は、それらのうち最も高額な年度登録料のみを JHA に納入すればよい。D 級の年度登録料は JHA が受領した金額を年度末に一括してそれぞれの所属するブロック協会に配賦する。配賦金はブロック内の競技役員にかかわる育成等の活動に利用されることが望ましい。第 16 条 4 項に該当する場合の年度登録料は免除するが、停止が解除された時点で該当する登録料を納入する。

(資格の失効)

第 13 条 公認競技役員は、次に該当するときにはその資格を喪失する。既に納入されている登録料は返還しない。

1. 第 12 条に規定する年度登録料を納入しなかった場合は、資格が失効する。
2. 資格を失効させた者が再度競技役員資格を取得しようとする場合は、それまでの実績は喪失されたものとして扱う。

(資格の剥奪および抹消)

第 14 条 公認競技役員は、次に該当するときにはその資格を喪失する。既に納入されている登録料は返還しない。

1. 公認競技役員として著しく不適切な行動や言動があった場合は、資格を剥奪する。
2. 本規程を著しく逸脱する行動や言動があった場合は、資格を剥奪する。
3. 死亡または失踪宣告を受けた場合は、資格を抹消する。

(降 格)

第 15 条 公認競技役員は、次に該当するときには降格する場合がある。ただし、JG および D 級は降格しない。既に納入されている登録料は減額しない。

1. 第 6 条に規定する活動を行う意思が認められないとき。
2. 第 6 条に規定する研修会を理由無く受講しなかったとき。
3. 各資格で必要とする見識、技能を有していないと認められたとき。

(資格の停止)

第 16 条 公認競技役員は、次に該当するときにはその資格の効力の一部または全部が期間を定めて停止する場合がある。既に納入されている登録料は返還しない。

1. 公認競技役員として不適切な行動や言動があった場合。
2. 本規程を逸脱する行動や言動があった場合
3. 競技会等において故意または重大な過失により円滑な運営を著しく妨げた場合。
4. 海外赴任や長期療養等の事情により本人より活動休止の申し出であった場合。最長で 3 年間とする。

(資格の剥奪および抹消、降格、停止手続き)

第 17 条 資格の剥奪および抹消、降格、停止は、次のように行う。

1. 第 14 条、第 15 条、第 16 条に該当すると認められる場合は、技術委員会で審議のうえ資格の剥奪または抹消、降格、停止の仮決定を行う。
2. 技術委員会は仮決定の内容を当該者（死亡または失踪宣告の場合は、所属ブロック競技長、審判長）に通知して状況を確認し、本人が希望する場合は、弁明の機会を設ける。
3. 前項において、海外駐在等やむを得ない事由等を勘案して技術委員会は仮決定内容を変更または取消することができる。
4. 第 2 項を実施後、技術委員長は資格審査室にその内容を諮問する。資格審査室で審議を行い、資格の剥奪または抹消、降格、停止を決定する。

5. 技術委員会は決定後に本人（死亡または失踪宣告の場合は、所属ブロック競技長、審判長）および所属ブロック競技長、審判長にその内容を通知する。

（公認競技役員引退者の扱い）

第18条 公認競技役員引退者の活動範囲等については次のとおり定める。

1. 51歳以上の公認審判員が表-5に定める体力基準を達成できない場合は、第7条に定める審判員としての活動を行うことはできず、引退者として扱う。
2. 公認競技役員は引退届を資格審査室に提出し、受理された時点で引退者として扱う。
3. 公認競技役員引退者は、大会TDの承認により全国大会を含む6人制の試合を担当することができる。また、マスターズ（40歳以上）の試合を担当できる。
4. 公認競技役員引退者は、大会TDの承認により全国大会以外の試合を担当できる。ただし、表-1に定める大会の試合の場合は、競技部長または審判部長の承認を要する。
5. 公認審判員引退者は、全国大会を含むすべての試合のサジェスションアンパイア、ビデオアンパイアを担当できる。

（講習会等の実施）

第19条 公認競技役員は競技規則、競技運営規程に関する知識、解釈、技能向上を図るために実施される講習会等に積極的に参加しなければならない。実施される講習会と受講料は表-4のとおりとする。

（その他）

第20条 この規程に定めるもののほか必要な事項については、技術委員会が関係箇所と協議のうえ決定する。

1. 公認競技役員は、この規程に関わる事項に疑義が生じた場合に技術委員長へ照会を行うことができる。

（附 則）

1. この規程は、公認TD・TO・J規程と公認審判員規程を統合し、2016年4月1日から施行する。それに伴い、公認TD・TO・J規程と公認審判員規程は廃止する。
2. この規程は、2017年4月1日に改訂する。
3. 規程変更の移行措置として、2016年4月1日より2017年3月31日までにD級登録された資格の有効期限は、2018年3月31日とし、2017年度の年度登録料（更新）は免除する。
4. この規程は、2018年4月1日に改訂する。
5. この規程は、2019年4月1日に改訂する。
6. この規程は、2020年4月1日に改訂する。
7. 定年制度廃止の移行措置として、2020年3月31日現在に登録されている定年者の年度登録料は3,000円として変更しない。
8. この規程は、2021年4月1日に改訂する。
9. この規程は、2022年4月1日に改訂する。

表-1 全国大会ブロック予選会

全国高等学校ホッケー選手権大会ブロック予選
全日本中学生ホッケー選手権大会ブロック予選
全日本社会人ホッケー選手権大会ブロック予選
国民体育大会ホッケー競技ブロック大会
全国高等学校選抜ホッケー大会ブロック予選

表-2 認定料

資格	認定料(円)
TD	5,000
TO	4,000
JG	3,000
UM	5,000
A級	5,000
B級	4,000
C級	3,000
D級	2,000

表-3 年度登録料（更新時）

資格	年度登録料(円)	資格	年度登録料(円)
TD	5,000	UM	5,000
TO	4,000	A級	5,000
JG	3,000	B級	4,000
引退者	3,000	C級	3,000
		D級	2,000

表-4 講習会および受講料

講習会名等	受講料（円）	備考	講習会名等	受講料（円）	備考
1. JHAが主催するもの			2. ブロック協会、各競技連盟が主催するもの		
全国統一ルール研修会	5,000	JHAに納入	ルール研修会	※5,000	主催者に納入
TO昇格試験	5,000	JHAに納入	JG認定講習会	※3,000	主催者に納入
TO講習会	5,000	JHAに納入	B級審判昇格試験	※5,000	主催者に納入
UM認定講習会	5,000	JHAに納入	C級審判昇格試験	※3,000	主催者に納入
A級昇格審判講習会	5,000	JHAに納入	D級審判認定講習会	※3,000	主催者に納入
B級審判昇格試験	5,000	JHAに納入	必要に応じた技能向上のための講習会	主催者が決定	主催者に納入
必要に応じた技能向上のための講習会	都度決定	JHAに納入	3. 都道府県協会が主催するもの		
			D級審判認定講習会	※3,000	主催者に納入
			JG認定講習会	※3,000	主催者に納入
			必要に応じた技能向上のための講習会	主催者が決定	主催者に納入

※印の受講料は目安です。ブロック協会、各競技連盟、都道府県協会が主催する研修会、試験及び講習会の受講料は、主催者が実情に応じて決定すること。

表-5 審判員体力測定項目と基準 (20mシャトルラン)

年齢・性別	往復回数	年齢・性別	往復回数
29歳以下男性	84 (レベル10)	29歳以下女性	73 (レベル 9)
30歳代男性	73 (レベル 9)	30歳代女性	62 (レベル 8)
40歳以上男性	62 (レベル 8)	40歳以上女性	52 (レベル 7)

上記は最低限求められる基準であり、男性は84回、女性は73回を上回ることを強く要請する。

全国ルール統一研修会資料



■2021年判定に関するレビュー
■2022年ルール解釈と重点事項2021

2022年のスムーズな運用に向けて

2022年2月12日
技術委員会審判部

項目ごとの解説と2022年の適用

項目	2.2 GK特権を持つフィールドプレイヤーの廃止（2022年変更）
解説	<p>出場プレイヤー構成は次の2択</p> <p>A. フル装備GK1名と10名のフィールドプレイヤー（FP）</p> <p>B. 11名全員FP（いわゆるパワープレー）</p> <ul style="list-style-type: none"> パワープレー時にPSを取られてしまった場合は、フル装備GKを守護者として戻すことは可能。 パワープレー時にPCを取られてしまった場合は、フル装備GKと交代することはできず、守護者はGKのヘッドギアを着用できない。PC守備時のFPが着用する防護アイテムのみ着用可能。 6人制はフル装備GKが必須。
適用状況	<ul style="list-style-type: none"> 特に混乱なく運用。 観客にとってのわかりにくさの低減化。
2022年の適用	正式ルール化

はじめに（毎年同じですが）

責任と義務（競技規則2ページ）

- ホッケー競技に参加する者は、本規則書記載のホッケー競技規則およびその他の情報を知っておかなければならない。そして、本規則書に従って行動することを要求するものである。
- 安全ということを、第一に強調する。試合に関わる人はすべて、自分以外の人の安全に十分配慮して行動しなければならない。

項目ごとの解説と2022年の適用



項目	4.2 PC時の守備側選手の防具の着用可能範囲の明確化（2022年変更）
解説	<ul style="list-style-type: none"> 守護者がPC用の防具を取り外す適切な機会が無かった場合、23mのエリア内にいる間、ペナルティ無しで防具を着用し続けることができる。すべてのプレイヤーは、23mのエリアから出る前、または審判から指示されたときに、すべての保護具を外さなければならない。
適用状況	2022年新規適用
2022年の適用（審判員への指針）	<ul style="list-style-type: none"> プレーに影響のある上記の違反に対しては、反対側チームにフリーヒットを与え、度重なる違反等状況によってはカード提示の個人的罰則を与える。 <p>6人制は適用範囲を自陣エリアとします。 （「23m」を「自陣」と読み替える）</p>

競技規則の変更（2022年度）

2022年のルールブック改訂・発行無し

- ✓ FIHルールに大幅な変更がなし
- ✓ 6人制も11人制に準じて発行しません
- ✓ FIHインドアホッケールールは改訂なし

2022年も利用します

項目ごとの解説と2022年の適用

項目	6.5 試合の開始と再開：ブリーについて（2022年変更）
解説	<ul style="list-style-type: none"> ペナルティコーナー実施中、ブリーが与えられた場合ペナルティコーナーが再び与えられる。
適用状況	2022年変更箇所
2022年の適用	<ul style="list-style-type: none"> PC実施中にブリーに関係無い事象が発生し、反則も起きていないのに試合を中断した場面等が想定される。 この項目の追加に伴い、競技規則13.5のPC完遂条件の一つが削除される（重複する内容のため）

2022年競技規則の変更箇所（おさらい）

- 2.2 チームの構成：強制的実験規則の削除
- 4.2 プレイヤーの服装と装備：ペナルティコーナー時の守備側の防具
- 6.5 試合の開始と再開：ブリーについて
- 9.10 プレイの細則：上げられたボールについて
- 13.5 罰則の実施手順：ペナルティコーナー完遂条件

項目ごとの解説と2022年の適用

項目	13.5 PC完遂（PC状態の解除）要件で「ブリー」の項の削除（昨年は「ボールがサークルから2度目に外に出た時」が削除）
解説	<ul style="list-style-type: none"> PC時の選手交代制限が解除される（=選手交代が可能となる）条件は下記のとおり。 ①得点 ②守備側FH ③ボールがサークルから5m以上離れた時 ④ボールがバックラインから出てPCでないとき ⑤守備側選手の反則でPCでないとき ⑥PS 条件に不らずに再度PCとなった場合は連続して行われるPCとして選手交代制限は継続。 ベンチに戻る選手が先にベンチに戻っておくことは可能。代わりに出場する選手はテクニカルテーブル前で待っている状態。
適用状況	2021年は概ね問題なく適用された
2022年の適用	<ul style="list-style-type: none"> PC時の選手交代に手順不適合な事例が発生しないようTOは留意する。 ③に該当する時、ボールが5m以上離れたかどうか微妙と思われる場合には、アンパイアはPC制限解除となるゼスチャーをできるだけ行うこととする。

項目ごとの解説と2022年の適用



項目	9.10 上げられたボールの処理
解説	<ul style="list-style-type: none"> 落下地点でレシーブしようとしている選手に対し、5mより離れた地点から近づいてボールをインターセプトすることができる。ただし、選手同士がプレー可能範囲内が無いことかつ安全にプレーできる状態であること 上げられたボールが落下してくる時、そのボールを受けたり、コントロールしたり、グラウンド上に戻そうとしたりしているプレイヤーがいる時は、相手側プレイヤーはそのプレイヤーから5m以内の距離に近づいてはならない。 落下地点に位置取りしている選手が明確でない場合は、ボールを上げたチームの相手側選手にレシーブ権がある。
状況	<ul style="list-style-type: none"> 2021年は審判員の解釈にばらつきがあった。迷ってしまうことで、判定が遅れるケースが多く見られた。
2022年の適用（アンパイアリング指針）	<ul style="list-style-type: none"> 落下地点でレシーブしようとしている選手に対し、5mより離れた地点から近づいてボールをインターセプトすることができる。ただし、選手同士がプレー可能範囲内に近づかないこと、インターセプト後もプレー可能範囲にならないこと（＝安全にプレーできること）が条件となる。 23mエリア内でレシーブしようとする攻撃選手に対し、守備選手が5m以内に故意に近づいていき、相手選手のプレー可能な範囲でプレーしようとする行為は、PCとなる。同様の解釈でサークル内の場合はPSとなる。

項目ごとの解説と2022年の適用



項目	運営規定 サジェスション/ビデオアンパイア運用手順
解説	<ul style="list-style-type: none"> チームチャレンジの結果、チームの主張が認められた場合又は有利な判定となった場合は、チャレンジ権は維持される
状況	<ul style="list-style-type: none"> チャレンジ後の再開時に、手順に沿っていない形で再開することがあった。
2022年の適用	<p>a. 判定が認められた場合又は有利な判定となった場合は、チャレンジ権は維持される</p> <p>例： 攻撃側：FHをチャレンジャー→PC/PS/ゴール：維持 攻撃側：PCをチャレンジャー→PS/ゴール：維持、PC：喪失 守備側：ゴールをチャレンジャー→PC/PS：維持 守備側：PCをチャレンジャー→FH：維持 PC/PS/ゴール：喪失</p> <p>b. ノードバイスの場合は、チャレンジ権は維持される</p> <p>c. アンパイアの判定を変更する明確な理由がない場合は、チャレンジ権は喪失する</p>

項目ごとの解説と2022年の適用



項目	規則9.13 スライディングタックル
解説	<ul style="list-style-type: none"> 相手選手にスライディングタックルを行い、危険であったり、危険を誘発したりする結果をもたらした場合は、故意の反則として個人的罰則を適用する。 相手選手の身体、スティックに自分の身体やスティックが触れた場合は当然のこと、相手選手が接触による危険性を回避するような動作を取るようになった場合に、個人的罰則を適用する。
状況	<ul style="list-style-type: none"> 概ねスライディングタックルの危険性の認識が浸透した
2022年の重点適用（アンパイアリング指針）	<ul style="list-style-type: none"> スライディングタックルの結果、相手選手の身体やスティックに触れた場合、個人的罰則はイエローカードによる10分間の退場とする。2回目はレッドカードとする。 スリップ等故意でないが、結果的にスライディングタックルの形になり、相手選手の怪我を誘因してしまった場合も個人的罰則を適用する。ただし、状況に応じて審判員は罰則内容を変更して適用する。

項目ごとの解説と2022年の適用



サジェスション/ビデオアンパイア運用手順（参考資料）

攻撃側のチャレンジ

UIMPの判定		SUMP/VUMPの結果			
		ゴール	PS	PC	その他
UIMPの判定	PS	維持	喪失	喪失	喪失
	PC	維持	維持	喪失	喪失
	その他	維持	維持	維持	喪失
	判定をしなかった	維持	維持	維持	喪失

守備側のチャレンジ

UIMPの判定		SUMP/VUMPの結果			
		ゴール	PS	PC	攻撃側/守備側のFH
UIMPの判定	ゴール	喪失	維持	維持	維持
	PS	喪失	喪失	維持	維持
	PC	喪失	喪失	喪失	維持

項目ごとの解説と2022年の適用



項目	規則13.3m PC時のシュートコースへの走り込み
解説	<ul style="list-style-type: none"> 守備側プレイヤーが、スティックでプレーしようとする意志がなくシュートコースやシュートしようとしているプレイヤーに対して走り込んで来たということが明確に判断される場合は、その行為は危険と見なして罰せられなければならない。
状況	<ul style="list-style-type: none"> 解釈に対してシーズン中に質問があり、かつ解釈にばらつきが見られた。
2022年の重点適用（アンパイアリング指針）	<ul style="list-style-type: none"> 走り込む選手がシュートしようとする選手を見ながら、スティックのプレー可能面をボールに対して正対させている場合は、プレーしようとする意思があると見なす。 シュートした選手に突進する走り方は危険な行為として、当該選手にカード提示による追加的罰則を与える。

項目ごとの解説と2022年の適用



以降は昨年のおさらいです

項目	4.3 GKの肘用防具は、ユニフォームで覆う必要はない。
解説	<p>GKは、シャツまたは上着により身体に付けている防具をすべて覆わなければならない。ただし、肘用防具については覆う必要はない。</p> <p>フル装備GKの成立要件 (少なくとも) ヘッドギア、レガード、キッカーズを着用</p>
適用状況	<ul style="list-style-type: none"> 特に混乱なく運用。
2022年の適用	継続適用。
項目	5.1 クォーター制の正式導入
解説	<ul style="list-style-type: none"> 15分×4Qで試合を行う。得点後は時間を停止しない。（国際大会のみ停止する） 大会ごとにクォーター、インターバル、ハーフタイムの時間を決定してよい。（大会運営規程に記載）
適用状況	<ul style="list-style-type: none"> 広く浸透済 大会に応じて時間を決定している
2022年の適用	<ul style="list-style-type: none"> 試合時間を変更する場合は、事前に大会運営規程に記載。

項目ごとの解説と2022年の適用



項目	規則13.3m PC時のフリックシュートの危険性
解説	<ul style="list-style-type: none"> PC実施中において、最初にシュートされたボールが5m以内にいる守備側プレイヤーの際から下に当たった場合は、もう一度PCが与えられなければならないし、ボールが5m以内にいる通常の構え方で立っている守備側プレイヤーの膝もしくは膝より上に当たった場合は、そのシュートは危険とみなして、守備側チームにフリーヒットが与えられなければならない。
状況	<ul style="list-style-type: none"> 解釈に対してシーズン中に質問があり、かつ判定にばらつきが見られた。
2022年の重点適用（アンパイアリング指針）	<ul style="list-style-type: none"> 地面に膝をついていたり、倒れているような状態で無い限り、原則として通常の構え方として判定する。

項目ごとの解説と2022年の適用



項目	規則9.13 身体接触プレー
解説	<ul style="list-style-type: none"> プレイヤーは、ボールを持っている相手プレイヤーに対して、身体接触をしないでボールがプレーできる位置でなければ、タックルをしてはならない。
状況	<ul style="list-style-type: none"> 半ば故意的に身体を使って相手選手を止めることを意図したプレーがあり、怪我を誘発する事象が散見された。
2022年の適用	<ul style="list-style-type: none"> 相手選手の無防備な背面側からタックルを行い、その結果相手選手の身体に接触し、怪我につながる危険な状況となった場合は、カード提示による個人的罰則を適用する。

項目ごとの解説と2022年の適用



項目	6.5 ブリーの再開方法を変更（6人制）
解説	<ul style="list-style-type: none"> ボールの上方でお互いのスティックの平らな面を軽く1回打ち合わせ、その後、両プレイヤーがボールをプレイする。 旧ルールでは3回であったものを11人制と同じ1回に変更 開始場所の制限に注意 ✓ バックラインから12m以内の実施不可（6人制）
適用状況	<ul style="list-style-type: none"> ルールがこれまでの伝統（3回）が失われるとの意見と統一されて混乱が回避されたとの意見あり。
2022年の適用	継続適用。

（参考）
11人制では、バックラインから15m以内、サークルから5m以内でのブリー実施不可

項目ごとの解説と2022年の適用



項目	13.3 PC時は試合時間を停止
解説	<ul style="list-style-type: none"> PC判定時からPC開始までの最大40秒間試合時間を停止する。（40秒シュートクロックのカウント開始） 審判員がPC開始の笛を吹いた瞬間に試合時間の計時を再開。 連続して行うPCでは試合時間は停止するが、40秒間を待たずに選手の準備ができ次第再開する。 PC完了（PC状態解除）条件は下記（規則13.5）。下記以外でPCとなった場合は連続して行うPCとして扱う。 ①得点 ②守備側FH ③ボールがサークルから5m以上離れた時 ④ボールがバックラインから出てPCでないとき ⑤守備側選手の反則でPCでないとき ⑥PS
適用状況	<ul style="list-style-type: none"> 連続して行うPCの再開がスムーズでなく、時間がかかっている場合があった。
2022年の適用	<ul style="list-style-type: none"> 連続して行うPCでは、40秒間が選手に与えられていることではなく、速やかに再開しなければならないことを認識し、審判員は選手に協力を促す。（円陣は認められない） 審判員の注意にも関わらず時間をかけていると判断される場合は、遅延行為の反則を適用する。（カード提示）

項目ごとの解説と2022年の適用



項目	12.4 サークル内に転がっている守備側用具類にボールが当たって、その結果、おそらく入っていたと思われる得点が妨げられたならば、PSとなる。
解説	<p>PSの成立条件は2つ</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 守備側のプレイヤーによるサークル内の反則で、そのことによりおそらく入っていたと思われる得点が妨げられた場合。 ✓ 守備側プレイヤーによるサークル内での故意の反則で、攻撃側のプレイヤーが実際にボールを保持したり、保持しようとしていたりしているのを妨げられた場合。 ゴールライン直前でシュートボールをFPが足で防いだ場合と同じ解釈でPSとする。 サークル内で転がっている守備側選手の防具類にボールが当たった場合（上記除く）は、PCとする。（規則9.16）
適用状況	<ul style="list-style-type: none"> 2020年、2021年での適用事例報告なし
2022年の適用	継続適用。

項目ごとの解説と2022年の適用



項目	13.6e PC時の攻撃側フライングでは、球出し選手がセンターラインまで戻る。
解説	<ul style="list-style-type: none"> PC時の攻撃側選手のフライングでは、球出し選手がセンターラインに戻る。代わりの球出し選手はサークル付近にいる選手が行う。（PCアゲイン） 球出し選手のフェイントも同じ対応（PCアゲイン） 連続して行うPC時は当該選手は再びセンターラインに戻る。
適用状況	<ul style="list-style-type: none"> フライングをしてしまった攻撃選手がセンターラインに戻り、同じ球出し選手が再度球出ししてPCを実施した事例あり。 球出し選手がセンターラインに戻る間に、センターライン付近にいた攻撃選手が上がってきて球出しを行う事例あり。その間、上がってくる選手を待って再開した。
2022年の適用（アンパイアリング指針）	<ul style="list-style-type: none"> フライング発生時は、球出し選手がセンターラインに戻ることを反対側アンパイアが特に注意する。 センターラインに戻る球出し選手の代わりにサークル付近にいない選手を呼んで行おうとするチームに対し、審判員は注意を促す。注意が守られない場合は、攻撃側チームの遅延行為を適用し、当該選手にカードを提示し、PCで再開する。

項目ごとの解説と2022年の適用



項目	13.1a サークル内で守備側チームに与えられたFHの再開地点
解説	<ul style="list-style-type: none"> サークル内で守備側チームに与えられたFHの再開は、サークル内のどこから始めてもよい。
適用状況	<ul style="list-style-type: none"> 適用がまだ完全には浸透していない。
2022年の適用	<ul style="list-style-type: none"> 継続適用 選手にはルールの理解促進と上手な活用を期待

項目ごとの解説と2022年の適用



項目	13.6e PC時の守備側フライング、遅延行為
解説	<ul style="list-style-type: none"> PC時の守備側選手のフライングでは、当該選手（GKの場合は代わりのFP）がセンターラインに戻り、その際のPC守備者は4名以下に制限される。 40秒経過後も準備ができていない守備側選手は、カードが提示される。その際のPC守備者は4名以下に制限される。（GKの場合は代わりのFPにカードを提示） 連続して実施されるPCで制限は継続する。（=PC状態解除で制限も解除）
適用状況	<ul style="list-style-type: none"> 連続となるPCで5名での守備を行いやすい。
2022年の適用	<ul style="list-style-type: none"> 反対側アンパイアが守備人数に特に留意する。 万が一、上記状況で5名で守備を行ったとしても、PC開始までの指摘がない限り、そのままプレーを続行し、結果の修正は行わない。

- ✓ 6人制では、40秒クロックはなく、準備ができ次第速やかにPCを再開する。
- ✓ 6人制では「5名」を「4名」に読み替える。

項目ごとの解説と2022年の適用



項目	13.2f サークル付近の攻撃側FHで、攻撃側が即座にリスタートしなかった場合には、守備側選手は再開地点から5m以上離れなければならない。
解説	<ul style="list-style-type: none"> サークル付近の攻撃側FHが即座にダブル（セルフパス）でリスタートされた場合、リスタート時点でサークル内にいる守備プレイヤーは、ダブルする攻撃プレイヤーを追っていくことができる。ただし、ボールが5m動かされるまでその攻撃プレイヤーに影響を与える行為をしてはならない。 攻撃側FHが即座に開始されなかった場合は、たとえサークル内にいたとしても、守備側選手はリスタート地点から5m以上離れなければならない。
適用状況	<ul style="list-style-type: none"> 解釈に若干ばらつきが見られた
2022年の適用	<ul style="list-style-type: none"> FHの再開まで時間的余裕があるのに、守備側選手がリスタート地点から5m（6人制は4m）以上離れようとしなければ反則となることに留意して審判員は注意を促す。（状況によっては反則を取る）

項目ごとの解説と2022年の適用



項目	SO時のフライングの対応（競技運営規程付属書3）（2022年変更）
解説	<ul style="list-style-type: none"> シューター又はGK又は守備を行うプレイヤーが、アンパイアが笛を吹く前にプレイを開始した場合、シュートアウトはやり直しとなる。 SO時の度重なるフライングはカード提示による個人的罰則を与える。
状況	<ul style="list-style-type: none"> 明確化して記載。実運用は変更なし。
2022年の適用	<ul style="list-style-type: none"> 故意のフライングはグリーンカードによる警告（退場とはならない）。 同一チーム内の2回目（1回目と別の選手でも）の故意のフライングはイエローカード提示により退場処分。 攻撃選手が退場処分の場合は、当該攻撃は不成功となり、その後の当該選手の攻撃も自動的に不成功となる。 守備選手が退場処分の場合は、5名の攻撃側選手から1名を選んで守備する選手とすることができ、その際は希望があればGK装具を装着する時間を与える。（16（イ））

項目ごとの解説と2022年の適用



項目	5.1 終了間際の判定
解説	<ul style="list-style-type: none"> アンパイアが何らかの判定を下す間際（直前）にクォーターが終了となってしまったも、アンパイアは判定を行うことができる。 終了間際のアンパイアの判定後、クォーターが終了となってしまったも、アンパイアは相手アンパイアとの確認等を通じて判定を変更することができる。
状況	<ul style="list-style-type: none"> 解釈について明確にする必要がある
2022年の適用	<ul style="list-style-type: none"> 終了間際の重要な判定を正確に行うための運用であることを競技役員は意識する。

ルールは何のためにあるの？



- 誰もが安全にゲームを行うため
- 誰もが同じ理解でプレーをして楽しむため
- 誰もが同じ理解でゲームを観て楽しむため



アンパイアリング2021レビューと2022年計画



2021年アンパイアリングのレビュー

- ✓ 国際的には、東京オリンピックで特に見られたように、多少のファールが発生してもプレーができる限り、できるだけ継続していこうとするアンパイアリングが明確。
- ✓ バックスティックの反則に対する厳正な判定など、一貫性が担保され、そのことがホッケーの魅力向上につながっていた。世界基準を日本基準として、アンパイアの技量の向上と育成を目指す必要あり。
- ✓ 国内では、新型コロナウイルスの影響により予測できない事態が相次ぎ、年間を通じて、競技役員確保が難航。
- ✓ 試合の2人のアンパイアの連携、協力体制について多くの課題。PCでの相手エリアへの協力や連携不足等。
- ✓ 実働のアンパイアでは40歳代が多く若手アンパイアの育成は急務であること、また絶対数も少ないため、より多くのアンパイアを輩出する必要がある。

アンパイアリング2021レビューと2022年計画



2021年アンパイアリングのレビュー

- ✓ 選手とのコミュニケーションの取り方や伝え方がとても重要であり、選手の支援を行うための関わり方についての意識づけの指導を通年して実施。
- ✓ PC時のフライングの対応等、手順がしっかりと理解できていない場面があった。
- ✓ 全日本選手権では、サジェスチョンアンパイアとビデオアンパイアの併用を採用したが、概ね相互の長所を活かし、短所を補完する運用ができた。ただし、女子決勝にあっては、テレビ放送による電波の影響から無線機器が不安定となり、判定までに相当な時間を要してしまった。
- ✓ 経験の浅い審判員に対しては、これまでの事例等も交えながら指導を行った。怪我に対する対応の遅さが気になる場面が多く改善が必要。
- ✓ ジャパンリーグ等ハイレベルな試合に対して、十分なコントロールができていない試合も多く、特に、危険な行為に関する一貫性、PC時のシュートに対する判定、サークルのインアウト、スクープの落下地点での判定に大いに課題が見受けられた。選手の安全を担保し、フェアプレーを促すためにも、一貫性と指針のあるアンパイアリングを目指す必要がある。

アンパイアリング2021レビューと2022年計画



2022年アンパイアリングに関する活動計画

審判員評価基準の見直し

- ✓ 選手、チームスタッフとの信頼関係が構築されてこそ、良い試合ができるということを理解したうえで、規則の理解と技術を駆使して、最大限の支援を行う意識の再確認を行う。
- ✓ 評価には上記視点をより重視。そのためアンパイアフィードバックシート改訂を実施。

審判講習の実施（新規）

- ✓ HJLとも連携し、チームと競技役員との判定等に関する意見交換を随時行う仕組みを構築
- ✓ HJLの試合を見ながら若手審判員に対する講習会を随時実施。
- ✓ 映像のテクノロジー向上を活用した、判定の正確性を高める取り組みの実施。（簡易的ビデオアンパイア制度の導入、試合直後のリプレイ検証等アンパイアリング向上のための取り組み）
- ✓ 練習試合等の情報共有の仕組みの構築による、審判員トレーニング機会および選手との解釈の共有機会の増加

1 2021年度の評価

(1) 大会での評価

大学王座では、選手とのコミュニケーションの取り方に関して、アンパイアの言葉数が多い等過度に接する場面も多く、選手の支援を行うための関わり方について指導を行った。シーズン最初の大会ではあったが、多くのアンパイアがひたむきに判定をしようとする努力があり、概ね好感が持てる内容であった。

インターハイでは、初日のオープニングゲームでレッドカードが出るという波乱のスタートとなった。高校生の試合では、レベルの差やルールの理解度の違いがあるため、選手とのコミュニケーションの取り方や伝え方がとても重要となる。アンパイアは、一方的に判定を下すのではなく、選手のレベルに合わせたコミュニケーションの取り方や、伝え方、観察力が必要である。また、余裕を持った会場の確認ができていないなど、準備不足が否めない場面もあったため本大会において指導を行った。インターハイは試合数も多いため、多くのUMを配置して指導を行うことが理想的である。

全国中学生ホッケー選手権大会では、試合数も多く、地元のC級アンパイアも参加し、アンパイアの育成の観点からも有意義であったが、PC時の攻撃側のフライングの対応など細かなところで明確ではない判定が見受けられたため、大会を通して指導し改善を図った。

インカレではUM3名に加え、UM講習生3名の協力を得ながら、細かなフィードバックを実施することができた。判定については当該選手だけでなく、周囲の選手やベンチへの伝え方をどうするのか？またアンパイア同士もっとよい協力ができたのではないかとということなどが、全体的な課題としてあげられた。

全日本選手権では、初めて、サジェスチョンアンパイアとビデオアンパイアの併用を採用したが、概ね適切に判定を行うことができた。ただし、女子決勝にあっては、テレビ放送による電波の影響から無線機器が不安定となり、判定までに相当な時間を要してしまった。

高校選抜ではアンパイアの参加状況が厳しく、初日・2日目と連日ダブルを担当するアンパイアが複数名発生した。比較的経験の浅いアンパイアも参加していたため、これまでの大会の判定事例等も交えながら指導を行った。怪我に対しての対応の遅さが気になる場面が何度かあり指導を行った。

日本リーグでは、ハイレベルな試合に対して、十分なコントロールができていない試合も多く、特に、危険な行為に関する一貫性、PC時のシュートに対する判定、サークルのインアウト、スクープの落下地点での判定に大いに課題が見受けられた。選手の安全を担保し、フェアプレーを促すためにも、一貫性と指針のあるアンパイアリングを目指す必要がある。

(2) 全体評価

今年度は東京2020夏季オリンピックが行われ、ホッケーの質の高さに魅了された。特に、多少のファールが発生しても継続してこうとする意思が明確であることや、バックスティックなどの反則に対しての厳正な判定など、一貫性が担保され、そのことがホッケーの魅力につながっていた。技術委員会審判部では、この世界のホッケーを基準としたアンパイアの技量の向上と育成を目指していきたい。

一方、国内大会においては、新型コロナウイルスの影響により予測できない事態が相次ぎ、日本リーグの日程変更や大会の中止など、競技役員の確保が難しい1年であった。各大会では、試合を担当する2人のアンパイアの連携、協力体制について、課題が多く見られた。P Cでの相手アンパイアの協力や協力エリアでの連携不足などである。

そんな中ではあったが、若手アンパイアの頑張りやベテランの奮起など、努力が見られるアンパイアリングも数多くあった。

実働のアンパイアでは40歳代が多く若手アンパイアの育成は急務であること、また絶対数も少ないため、より多くのアンパイアを輩出する必要がある。

2 2022年度活動計画

(1) アンパイアの評価基準の見直し

アンパイアは、担当する試合がより良くなるために支援を行う立場であり、チーム関係者とアンパイアとの間で、リスペクトという信頼関係が構築されてこそ良い試合に導くことができるということを理解した上で、競技規則と技術を駆使し、最大限の支援を行うことが重要である。

ついでには、アンパイアの更なる技術向上を図るため、試合への支援という考え方やその行動が適切であったかという項目について重要視し、アンパイアの育成を図ることとする。

(2) 審判講習の実施（新規）

日本リーグを活用した審判講習会やブロック単位での審判講習会を新たな取り組みとして実施し、アンパイアのスキル向上を図ることとする。また、日本リーグとも連携し、選手側と競技役員側との意見交換を行う仕組みを構築し、課題の確認や目指すべき方向性について見だし、互いの協力によりホッケー競技の向上を目指す。

また、日本リーグ加盟チームが実施する練習試合等をアンパイアのトレーニングの場として活用することについても積極的に取り組みを進める。※練習試合等の情報は技術委員会（担当藤村）まで

(3) 具体的な事象に関すること

① P C時の守備側の体に当たった場合の判定基準の再確認について（事前配布資料から変更あり！）

シュートを放った地点から5m以内にいる守備側の選手の膝から上の体（膝を含む）にボールが当たった場合は、危険とみなし守備側F Hとする。また、この場合、守備側が極端な低い姿勢をとっている場合を除き、通常のプレーで発生した場合には、結果、ボールが当たった箇所により客観的に判断する。本件は、これまで、「膝から上」の解釈について、膝を含むのか含まないのかが曖昧であったため、改めて共通認識を図るものである。

② サークルのインアウトについて（特に、P C時）

P Cを行う際のボールを一度サークルから出す行為について、完全にサークルから出ていないと思われる事象が見受けられる。真上から見てサークルのラインに重なっている場合は、サークルからボールが出たことにはならない。また、サークル外からスティックを振りかぶりシュートをしようとしている事象に対しては、これまでどおり、最終スティックとボールが接した地点がインサークルかアウトサークルなのか、細心の注意を払い判定を行う。

③ スライディングタックルについて

スライディングタックルについては、JHAが示すレギュレーションによって、厳正に判定する旨を示している。悪意を持った行為ではないものの、勢いよく選手に向かっていった結果、スライディングの形になってしまい相手選手に接触するという事象も発生している。この行為に対しても、選手の安全を担保するうえでも適正に判定することを徹底する。

④ スクープの落下に対する判定について

スクープの落下について、インターセプトできるという解釈を示して以降、アンパイアの判定に微妙な遅れが見受けられるので、一貫性を持って良いタイミングで指針を伝える必要がある。

また、攻撃側のボールになる場合で、判定の発生場所がサークル外の23m内地点だった場合の、守備側の故意の反則としてPCとするのか、故意ではないとの判断によりFHにするのかの見極めが重要であり一貫性を高める。

⑤ フリーヒットなどで笛がなってからボールを触る行為について

笛がなってから意図的にボールを触り、再開プレーを遅らせようとする行為について、適正に判定していないケースがある。選手の意図を理解し、遅延行為として意図的に行ったのか、また、その行為によって相手チーム側に不利益はあったのかなどにより適正に判断し、一貫性を高める。

⑥ チャレンジ権について

チャレンジを行った結果、判定が変更にならなかった場合（ノーアドバイス含む）の再開方法について、適正な運用となっていないケースがある。インプレー中に時間を止めた場合は、守備側FHが適用され、アウトプレー（例えば、サイドラインからボールがコート外に出たからのチャレンジ受付）の場合は、時間が停止された時点の状態から試合を再開することとなるので、厳正に判定を行う。

新登録システム「ホッケーファミリー」(DNPスポーツ情報管理サービス) ご説明資料

DNP

大日本印刷株式会社
2022年2月12日

©2021 Dai Nippon Printing Co., Ltd. All Rights Reserved.

アジェンダ

DNP

- 1) 「ホッケーファミリー」とは
- 2) 会員（ユーザ）機能
- 3) 管理（協会関係者）機能
- 4) 今後の利用予定、拡張予定機能

2

1) 「ホッケーファミリー」とは

- 2) 会員（ユーザ）機能
- 3) 管理（協会関係者）機能
- 4) 今後の利用予定、拡張予定機能

3

新登録システム「ホッケーファミリー」とは

DNP

「ホッケーファミリー」
ホッケーに興味のある方全ての方を
一元的に管理するプラットフォーム

協会関係者

- ・ 一つのシステムでの関わる方全てを管理できるため、業務効率化が期待できます。また、様々な業務もネットワーク上で完結するため、アナログ作業も減少します。
- ・ 大会・イベントの設計から支払いまで、一貫した運用が可能になります。
- ・ 競技者、ファン/OBOGとのコミュニケーションを双方向から可能になります。
- ・ 市場調査、他団体ニーズから機能追加も予定しておりますので、よりご要望にあったサービスのご提案をさせていただきます。

競技者

- ・ 自身の競技結果などを、競技人生の履歴としてとして残せます。
- ・ 大会、イベントなども一元化され、ホッケーに触れる機会、興味のある方との出会いが創出されます。

ファン/OBOG

- ・ ファンも「ホッケーファミリー」の一員になれば、選手と一体となって競技を盛り上げることができます。
- ・ 応援するチームの情報がチェックできます。

4

「ホッケーファミリー」-サービス概要-

DNP

■ホッケーファミリーが協会関係者、会員とのハブになり各サービスをご提供

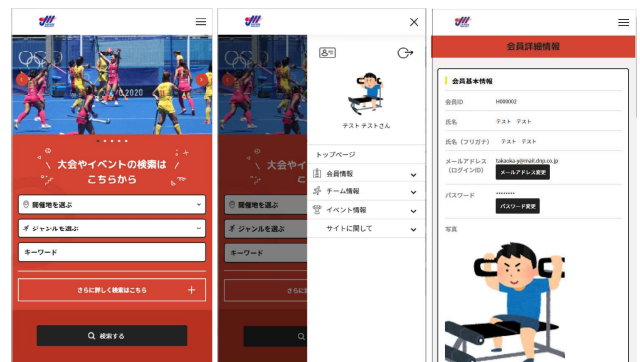


5

会員（ユーザ）ページ

DNP

■会員自身の情報登録、編集、イベントエントリー情報など管理、閲覧するページ

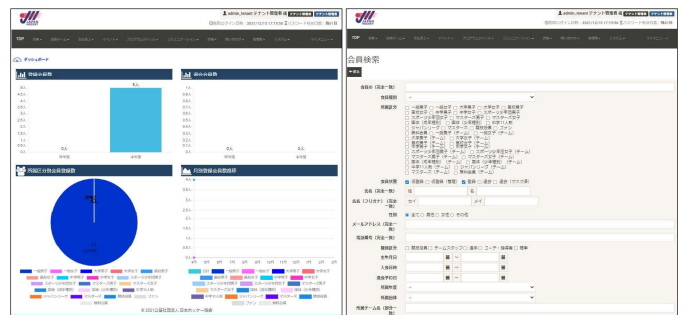


6

管理（協会関係者）ページ

DNP

■協会関係者が会員の登録情報、会費のお支払い状況などを確認、イベントなどを管理するページ



7

構築スケジュール

DNP

	2022年度	2023年度	2024年度
ファン登録・サービス			
イベント結果写真登録			
イベント結果登録			
イベントエントリー			
イベント設計			
資格管理			
チーム管理(データ移行)			
会員管理(データ移行)			
	イベント(大会、講習会等)テスト運用	イベント(大会、講習会等)関連機能利用開始 ・イベント設計 ・エントリー ・結果登録 ・画像登録	ファン向けサービス機能拡張 ・ファン会員情報管理 ・ファン向けイベント設計 ・フォト販売サービス連携 ・他、検討

8

会員管理

- 1. 会員登録
- 2. チーム登録
- 3. 年会費支払い
- 4. 資格登録
- 5. デジタル会員証

イベント管理

- 6. イベント登録
- 7. イベントエントリー
- 8. イベント参加費支払い
- 9. イベント結果登録
- 10. イベント結果写真登録
- 11. デジタル会員証入退管理
- 12. メール配信
- 13. マイページ 未実装

- 会員がサービス上でチームIDを設定し、作成することができます。
- 作成者がチーム管理者になります（チーム管理者を追加でアサインすることも可能）。
- チーム管理者が会員をチームに参加させることができます。
- 会員がチームへの参加申請を行い、チーム管理者が承認するとチームに参加できます。



1) 「ホッケーファミリー」とは

2) 会員（ユーザ）機能

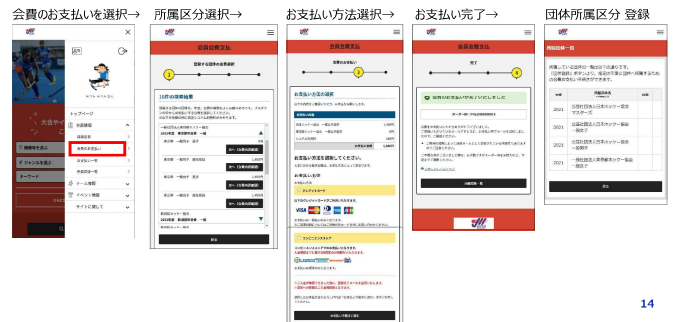
3) 管理（協会関係者）機能

4) 今後の利用予定、拡張予定機能

年会費 お支払い

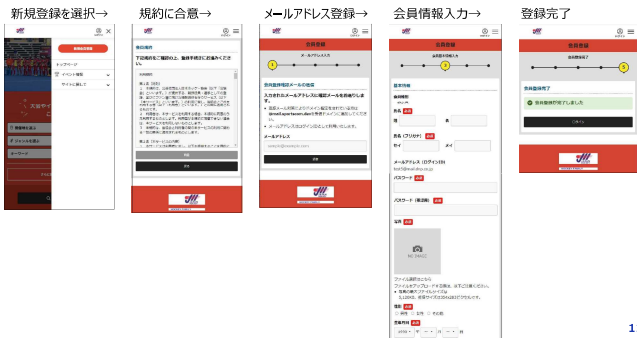
- 自身の団体所属区分を選択いただき、対象の年会費をお支払いいただけます。
 - クレジットカード/コンビニ支払いのご選択が可能です。
 - チーム管理者によるチーム参加者の代行お支払いも可能です。
- ※お支払い時には手数料（システム利用料）を別途頂戴いたします。

支払い単価	1~2,000円	2,001~10,000円	10,001円~
手数料(システム利用料)	180円	290円	4.9%



会員登録

- サービス上で自ら会員登録を行っていただけます。
- ログインIDはメールアドレスとしております。
- 登録後、固有の**会員ID**を発行いたします。 ※現在のメンバーIDから、新たなIDへの変更となります。
- 会員情報の修正は自身で行ってください。
- スマートフォン、PCから、ネットワーク環境があれば登録可能です。



デジタル会員証

- スマートフォン画面に表示される会員証です。
- 所属チーム、所属団体、保有資格等が表示されます。
- 会員IDのQRコードも表示可能で、イベントの入退管理等にご利用可能です。



会員登録時 登録区分（会員種類）

種別・建物名

携帯電話番号

※半角 ハイフンなし
電話番号 (電話番号)

※半角 ハイフンなし
登録区分

競技役員

チームスタッフ

コーチ 指導者

理事

出身小学校

小学校

出身中学校

中学校

出身高校

種別	概要/登録区分
一般会員 (会員、チーム管理者、 チーム参加者)	サービスを利用する基本会員
競技役員	会員登録時に自身で 選択
チームスタッフ	
選手	
コーチ・指導者	
理事	

1) 「ホッケーファミリー」とは

2) 会員（ユーザ）機能

3) 管理（協会関係者）機能

4) 今後の利用予定、拡張予定機能

管理者登録/管理者権限

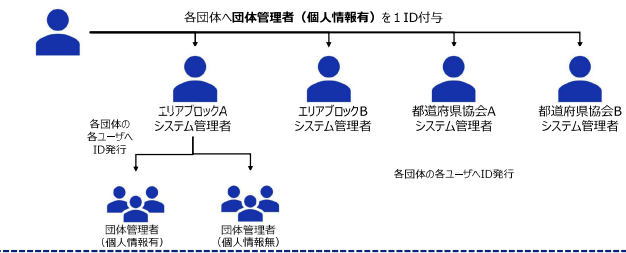
DNP

- 日本協会、エリアブロック協会、都道府県協会に付与される管理者権限です。
 - テナント管理者：全ての団体（ブロック、都道府県）の会員情報閲覧可能
 - 団体管理者（個人情報有）：管理する団体の会員のみの情報閲覧が可能
 - 団体管理者（個人情報無）：管理する団体の情報の閲覧が可能。個人情報閲覧不可
- 管理者IDの管理は各団体でお願いします。

管理者ID通用イメージ

テナント管理者

日本ブロック協会
システム管理者



17

会員情報変更/利用状況確認

DNP

- 会員情報の変更が可能です。
- 他、利用停止、退会処理、所属区分の除籍など、ステータス変更が可能です。

検索結果

会員情報変更

会員所属区分除籍

21

管理者TOP/メニュー

DNP

18

チーム検索/情報変更

DNP

- チームの検索が可能です。
- チームの登録情報の変更、所属区分の変更などが可能です。

チーム検索

検索結果

チーム情報変更

チーム所属区分の変更

22

管理者メニュー

DNP

- 「会員」：会員検索や会員登録情報編集など、会員に紐づく情報を管理、閲覧できます。
- 「団体チーム」：団体やチームの検索、その中に属する会員情報の確認等ができます。
- 「支払売上」：会員費やイベント・大会費用の会員の支払い状態を確認できます。
- 「会費」：会員、チームの年会費の設定ができます。
- 「イベント」：イベント・大会等の検索、その参加者の確認、また、イベント・大会を登録できます。
- 「プログラムジャンル」：イベント・大会内のプログラム、そのグループの登録・設定ができます。
- 「コミュニケーション」：会員、チームに向けたお知らせ機能、配信したメールの確認ができます。
- 「資格」：資格の登録、登録した資格の一覧を確認できます。
- 「問い合わせ」：ユーザーからの問い合わせを検索、内容の確認ができます。
- 「管理者」：管理サイトの管理者の検索、登録ができます。
- 「システム」：「管理サイト内で実行したタスクの検索ができます。また、協会、団体、連盟の規約を更新することができます。- ヘッドメニューの管理者-管理者登録からテナント管理者、団体管理者が追加できます。- ヘッドメニューの管理者-管理者登録をクリックすると、管理者登録画面が表示されます。」

19

支払検索/支払詳細確認

DNP

- 会員、チームの支払いが検索できます。
- 支払いの細目、支払方法、金額等が確認できます。

支払検索

検索結果

支払詳細

23

会員検索

DNP

- 会員の検索が可能です。
- 検索対象の条件を入れ、検索条件に合致した会員の情報を確認できます。

会員検索

20

支払ステータス変更

DNP

- 会員、チームの支払いのキャンセル対応ができます。
- イベント種別「大会」、「講習会」、「講習会」、「教室」、「その他」ごとに、下記の3パターンのキャンセル対応設定が必要になります。
 - いつでも可能
 - 開催開始日時直前
 - 不可

支払ステータス変更

※コンビニ支払いの入金済みの場合、会員・チームからの費用が完了しておりますので、貴協会にて対象者へのご返金対応が必要になります。

24

- 協会が発行している資格の登録が可能です。
- 資格取得した会員に対し、資格を付与することができます。

資格マスタ登録



資格マスタ登録



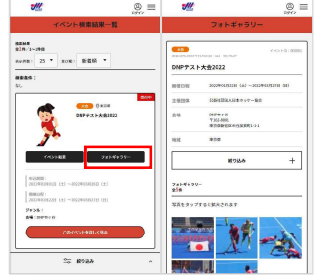
会員検索 → 会員詳細 → 資格付与 → 取得資格一覧 → 登録 → 取得資格登録



管理：イベント画像登録



会員：イベント画像閲覧



1) 「サッカーファミリー」とは

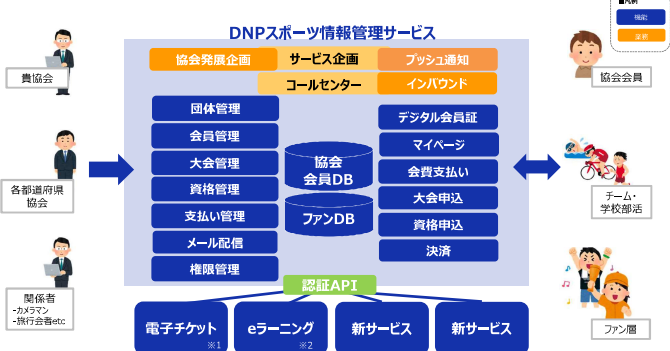
2) 会員（ユーザ）機能

3) 管理（協会関係者）機能

4) 今後のご利用予定機能、機能拡張について

プラットフォームとしての拡張性

- ・ プラットフォームは常に進化していく必要があると考えます。今後の市場ニーズ・社会環境の変化や、ご利用の各協会様からご意見をヒアリングさせていただき、システム開発改修を行ってまいります。



・連携サービスに関しては随時拡張
 ※1 外部連携システムをご利用する場合には、手数料の他に別途費用が発生いたします。
 ※2 別々での利用が可能なため、現時点ではeラーニングシステムの連携は行っておりません。

管理：イベント設計



会員：エントリー



電子チケットサービス

- ファンとのコミュニケーションでできるチケットサービス連携

- ・ 外部連携により、イベントでの電子チケットが利用可能です。
- ・ アプリのインストールなど不要で利用が可能です。

イベント



※利用料金は別途となります。

eラーニングシステム

- 指導者向けコンプライアンス教育などのコンテンツをご準備

- ・ 資格や認定試験に、eラーニングサービスが利用できます。
- ・ 集合検証以外での資格試験、認定試験のサポートを行います。

教育



※利用料金は別途となります。 ※教育コンテンツ作成は別途必要となります。

フォト販売サービス

- コンテンツ2次利用「ImagingMail」ご提案

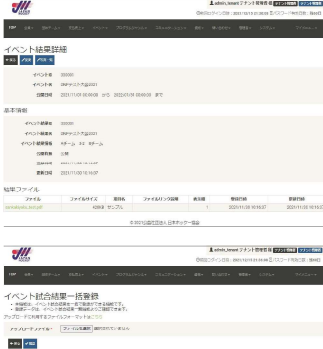
- ・ 登録したコンテンツ画像を、編集画面で自由に選択するだけで、オリジナル商品を注文できるクラウド型サービスです。

販促



※利用料金は別途となります。

管理：イベント結果登録



会員：イベント結果閲覧



■あらゆる角度からセキュリティを整備し、システムを安全に運用します。

DNPのセキュリティに対する考え方

システムの構築、運用におけるセキュリティの対策には様々な観点からのポリシー策定と実行が必要となります。これらを組み合わせる事でセキュリティに対する万全なシステム運用環境を構築してまいります。

① アプリケーションレベルのセキュリティ

- DNPルールとして策定したガイドラインに沿った開発
- 定期的な再チェックの実施体制
- 開発アプリケーションに対する脆弱性調査の実施

② サーバー・ネットワークレベルのセキュリティ

- 不要なサービスやポートの閉鎖
- 必要な通信のみを許可する厳密なアクセス制御
- 暗号化による重要情報の保護
- 脆弱性への迅速な対応

③ ファシリティ・運用レベルのセキュリティ

- ICカードや生体認証による物理アクセス制御
- 監視カメラ映像や入退館情報の記録保管
- デュアルコントロールでの運用対応

④ 個人情報取り扱いに関するセキュリティ

- 専用環境での厳格な個人情報取り扱い
- セキュリティ度や専用システムでの安全なデータ授受
- 通信記録、作業履歴などの記録管理

弊社の考えるセキュリティに対する方針について大きく上記4項目に分類し、管理運用しております。



大日本印刷株式会社

お問い合わせ・ご相談は下記へどうぞ

大日本印刷株式会社
 ABセンターICT開発本部 第1ユニット第2部
 高岡 雄仁
 Mail:takaoka-y@mail.dnp.co.jp

■個人情報保護方針に従い、個人情報を適正に取扱います。

個人情報保護方針

大日本印刷株式会社 個人情報保護方針 前文あり

当社は、さまざまな企業や団体から個人情報を預かり、生活者に向けて発信する各種サービスや製品の提供をお手伝いしております。また、当社が独自に行なうビジネスとしても、個人情報を有効活用した各種サービスや製品の開発を手掛けてまいりました。こうしたシステムを通じて、個人情報の重要性を充分認識し、まいりました。情報を適切に管理し、適切に活用していただくことが当社の責であると考えております。

- 当社は、個人情報保護方針に従い、個人情報の適正な取扱いを行います。
1. 個人情報の取扱いに関する法令、国が定める指針その他の規範を遵守し、個人情報の取扱いに努めます。
 2. 個人情報の取扱い、漏失又は滅失の防止その他の個人情報の安全管理のために必要かつ適切な措置を講じるとともに、これらの漏失が発生した場合は迅速な対応と適切な措置を講じます。
 3. 個人情報の取扱いの目的を、公正かつ適正に管理し、利用目的を限定し、また特定の利用目的の達成に必要な範囲を超えた個人情報の取扱いを防止するための措置を講じます。
 4. 当社の保有する個人情報について、本人から開示等の求めがあった場合には、適正に対応します。
 5. 企業や団体から個人情報を預かる業務を行う場合には、委託した業務範囲内で個人情報を取扱いします。
 6. 個人情報の取扱いに関する社内規程を定め、体制を構築・維持するとともに、その継続的な改善に努めます。
 7. 当社の個人情報の取扱い及び個人情報保護体制に関して、本人から苦情・相談があった場合には適正に対応します。

平成11年 12月1日制定
 平成17年 2月1日改訂
 平成18年 12月1日改訂

プライバシーマーク取得

当社は2008年7月に、「個人情報保護マネジメントシステムの要求事項（ISO 15001）」に適合して、個人情報の適切な保護のための体制を整備していると認められ、財団法人日本情報処理開発協会からプライバシーマークを取得しております。



■セキュリティを考慮した二段階認証

- ・フロント側も管理画面側も個人情報を閲覧する機能に関しては、再度個人の特定を実施
- ・登録しているアカウントのメールアドレスに対して、ワンタイムパスワードを発行し、認証を強化します。

ユーザ側も



■通常の認証画面



■個人情報参照時の追加認証画面



管理者側も



■通常の認証画面

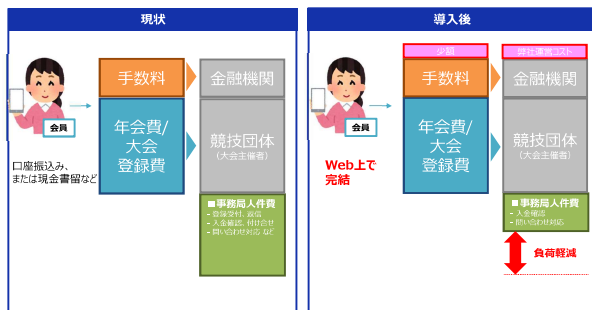


■個人情報参照時の追加認証画面



■運用費に関しては、貴競技団体の負担は発生しません。

- ・システムの維持管理は非常にコストのかかることですが、本サービスの利用費は、貴競技団体への収益に影響がないよう、会員からの手数料で運営するサービスです。会員側にも利便性を提供し、小額の手数料追加で運営します。
- ・競技団体の業務コスト削減。各種データの見える化をご提供します。
 ※初期設定費5万円（画像制作、環境設定など）は別途発生します。
 ※イベントや大会などの利用回数が極端に少ない場合は、月額利用費などをおいたご場合があります。



2022年度 国内競技会 主催・共催計画 (案)

2022/1/30時点

大会名	大会回数	期 間	主管協会・連盟	会 場	主催・共催
高円宮杯2022男子日本リーグ	第21回	未定 (2022年3月上旬決定予定)	ホッケー ジャパンリーグ	未定	共催
高円宮杯2022女子日本リーグ	第25回	未定 (2022年3月上旬決定予定)	ホッケー ジャパンリーグ	未定	共催
全日本大学ホッケー王座決定戦・東西交流戦	第41回	7月15日(金)～7月18日(月祝)	関西学連	立命館OICフィールド 親里ホッケー場	主催
全国高等学校ホッケー選手権大会	男子第85回・女子第64回	7月30日(土)～ 8月 3日(水)	徳 島	徳島県立阿南光高等学校人工芝ホッケー場 阿南市楠湾中浦緑地公園ホッケー場 徳島県立阿南光高等学校天然芝グラウンド	共催
全国スポーツ少年団ホッケー交流大会	第44回	8月12日(金)～ 8月14日(日)	東 京	大井ホッケー競技場(サウス、ノース)	共催
全日本中学生ホッケー選手権大会	第52回	8月20日(土)～ 8月22日(月)	宮 城	栗原市築館多目的競技場 栗原市一迫多目的広場	主催
全日本マスターズホッケー大会	第20回	9月17日(土)～ 9月18日(日)	富 山	小矢部ホッケーフィールドby三井アウトレットパーク 小矢部市野外運動広場	主催
国民体育大会ホッケー競技	第77回	10月 2日(日)～10月 6日(木)	栃 木	日光市ホッケー場 今市青少年スポーツセンターホッケー場	共催
全日本社会人ホッケー選手権大会	男子第64回・女子第44回	10月14日(金)～10月16日(日) ファイナルラウンド	社会人連盟	大井ホッケー競技場(男子)・広島広域公園第2球技場(女子) ブロック予選会(7月末日迄)とプライマリラウンドは(9月)実施予定	主催
WMHマスターズホッケーワールドカップ		10月19日(水)～10月29日(土)	東 京	大井ホッケー競技場他	共催
全日本学生ホッケー選手権大会	第71回男子・第44回女子	11月 2日(水)～11月 6日(日)	関東学連	大井ホッケー競技場(ノース・サウスピッチ) 駒沢オリンピック公園総合運動場	主催
全日本中学生都道府県対抗 11人制ホッケー選手権大会	第23回	11月12日(土)～11月13日(日)	福 井	福井県立ホッケー場 越前町営朝日総合運動場	主催
全日本男子・女子ホッケー選手権大会	第96回・第83回	①11月17日(木)～11月20日(日)	東 京	大井ホッケー競技場ノースピッチ (サウスピッチは練習会場)	主催
全日本女子ホッケー選手権大会	第83回	②11月18日(金)～11月20日(日)	東 京	大井ホッケー競技場ノースピッチ (サウスピッチは練習会場)	主催
全日本男子ホッケー選手権大会	第96回	③12月9日(金)～12月11日(日)	東 京	大井ホッケー競技場ノースピッチ (サウスピッチは練習会場)	主催
第3回マスターズJapan Cap	第3回	12月 3日(土)～12月 4日(日)	東 京	大井ホッケー競技場ノース・サウスピッチ	主催
全国高等学校選抜ホッケー大会	第54回	12月23日(金)～12月27日(火)	岐阜高体連	川崎重工ホッケースタジアム 岐阜各務野高等学校ホッケー場	共催

※期間は競技実施期間(開会式・監督主将会議の期日は含まない)

2022年度 国民体育大会ブロック大会 一覧表

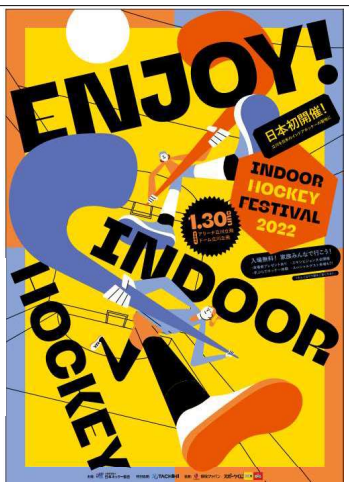
2022.1.30/現在

ブロック	北海道	東 北	関 東	北信越	東 海	近 畿	中 国	四 国	九 州
担当開催 都道府県	北海道	青森県	東京都	福井県	岐阜県	京都府	広島県	高知県	熊本県
責任者	手倉森 勇夫	田鎖 豊	多氣洋平	松村 徹治	長屋 恭太	野々村 守	柳田 剛志	竹村 順二	石原 誠慈
開催場所	北海学園札幌高校 人工芝ホッケー 場	青森県立三沢高等学校 グラウンド(人工芝) 六ツ所村内子内農山村 広場(人工芝)	大井ホッケー競技 場メインピッチ、サ ウスピッチ	福井県立ホッケー場 越前町営朝日総合運動 場	川崎重工ホッケー スタジアム	グリーンランドみずほホッ ケー場(京都) 丹波羅山総合スポーツ センター(兵庫)	広島広域公園第2 球技場	秦山公園 (土佐山田スタジアム)	小国町林間広場
開催日	8/13(土) ～ 8/14(日)	8/26(金) ～ 8/28(日)	8/19(金) ～ 8/22(月)	8/19(金) ～ 8/21(日)	8/20(土) ～ 8/21(日)	8/26(金) ～ 8/28(日)	8/19(金) ～ 8/21(日)	8/19(金) ～ 8/21(日)	8/26(金) ～ 8/29(月)
備 考			少年男女:8/19、8/21、8/22 成年男女:8/20、8/21、8/22 予定						

インドアホッケー 情報提供



2022.02.12



インドアホッケーとは



- 1チーム6名の選手がスティックを巧みに扱い、相手ゴールにボールを入れあう競技
- コートの大きさは、約40m×20m



5

インドアホッケーフェスティバルの延期



インドアホッケーフェスティバル2022
～日本での幕開け～

アリーナ立川立飛・ドーム立川立飛
(東京都立川市)



インドアホッケーイベント延期のお知らせ

新型コロナ関連の状況悪化に伴い
延期となりました

当初予定：2022年1月29日、30日

※2022年春頃での実施を検討中



インドアホッケーとは



インドアホッケーの施設や用具の特徴は？

- スティックはアウトドア用より薄くて平たい
(トッププレイヤーは木製を好むらしい)
- ボールは表面が滑らかで、重さ堅さはアウトドア用と同程度
- フロア材はウッドパネル、プラスチックパネル等、多様なものが利用できる。
- サイドボードは10cmの高さがあり、ピリヤードのようにボールが跳ね返るため、プレーが切れにくい。壁を使って人パスも!



6

インドアホッケーフェスティバル



3

アリーナ立川立飛



所在地：東京都立川市



アリーナ立川立飛

ドーム立川立飛

7

インドアホッケーとは



インドアホッケー本格始動!

インドアホッケーの見所

スリリングなゲーム展開
巧みなパスワークと
スティックワーク
一瞬で決まるゴール

<https://www.youtube.com/watch?v=v3MzbE6pZb0&t=109s>

4

将来構想 ～立川を日本のインドアホッケーの聖地に！～



- 世界のインドアホッケー
FIH (国際ホッケー連盟：統括団体) 構成国数 (70か国)
うち、インドア登録数 男子 4 4 カ国 女子 4 0 カ国
- 主要国際大会
ワールドカップ (4年毎に開催。前回は2018年ドイツ)
アジアカップ (毎年開催。約回は2019年タイ)



2018年2月にドイツ・ベルリン行われた第5回インドアホッケーワールドカップ決勝戦の様子。8,000人の観客が熱い声援を送った

国際大会の招致

アジアカップ、ワールドカップ

ユニバーサルスポーツ概念の確立浸透

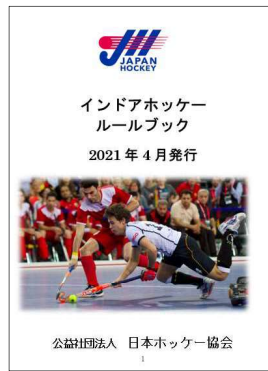
パラホッケー、ビーチホッケー、フロアホッケーとのジョイントイベント、協力体制の確立、

8

ルールブックの新規制定



- ✓ インドアホッケールールブックを新規発行（2021年4月）



お問い合わせ



下記に該当する方は遠慮なくすぐにご連絡を！

- ✓ インドアホッケーに興味がある
- ✓ インドアホッケーをプレーしてみたい
- ✓ 競技備品（サイドボードなど）の借用希望
- ✓ コートの設営方法を教えてほしい

問合せ先
JHA事務局
info@japan-hockey.org

質問・要望と回答



質問と要望と回答



質問・要望 競技運営ではなく本研修会に関するのですが、オミクロン株の感染が拡大している中、本研修会における感染症対策は十分に対応いただけるのでしょうか？例年大会議室にて多数の参加者が一堂に会し行われていますが、座席配置など不安に感じております。また同様の理由にて、宿泊及び懇親会への参加は辞退させていただきます。

回答 既回答と同様です。

質問・要望と回答



質問・要望 ルール研修会の参加を申し込みましたが、現在、首都圏中心に大阪も新型コロナウイルス オミクロン株の感染者が増加している為、昨年同様、もし可能であればオンラインにて実施して頂けると助かります。ご検討の程、よろしくお願いします。

回答 リアルとオンラインの併用としました。今後もオンラインの効率性などメリットとデメリットを勘案しながら、最適な開催方法を検討してまいります。ご意見やアイデアなどがあれば遠慮なくご連絡ください。

質問・要望と回答



質問・要望 6人制のルールブックにはブリーの記載がないので周知してほしい。

回答 レギュレーション等への内容を記載をしていきたい。

質問・要望と回答



質問・要望 公認競技役員資格の認定に関して2021年度の資格取得者の人数をJHAホームページNEWS欄にて報告してほしい。かつては広報誌に氏名まで報告があり、技術委員会の活動内容の様子がうかがわれました。近年はその活動の様子が見えません。人数だけでも報告をお願いしたい。別件ですが、コロナ感染者が再び多くなり始めており参加しますが不安感はなくありません。オンラインでの会議の検討をお願いしたいのですが、よろしくお願いします。

回答 資格獲得者名と所属協会の公表については、個人情報保護の流れや本人の意向を踏まえて積極的には行っておりません。一方で、ホームページや広報誌に名前が掲載されることによるモチベーションの向上や、職場や家庭での活動の理解向上につながる場面も想定されます。法的な問題をクリアにしたうえで、公表することを検討して参ります。また、氏名だけでなく、競技役員の見え方も踏まえて、できるだけ露出を増やすように参ります。会議開催方法については、既回答と同じです。

質問・要望と回答



質問・要望 ジャッジは2名でやるのとことでしたがオペレーターはジャッジの資格は必要でしょうか。

回答 オペレーターはジャッジの資格は必要ありません

質問・要望と回答



質問・要望 日本リーグの日当及び交通費の精算について、締日や支払日等のルールを決めて対応してほしいです。特にコロナ禍で試合日程が詰まったり、毎週、遠方への移動が多く、過去の経験から、支払いに時間を要している場合がみられました。また、非常にデリケートな側面も持ち合わせている為、不測の事態における連絡や報告は必要であると思います。突然振り込まれたり、支払遅延といったことがあると、一般企業に勤めている者として、リーグ機構自体の財務会計上の問題や何らかの不正が行われているという風に捉えられても致し方ないと思います。

回答 ご不安・ご不満を感じられたことに対し、お詫び申し上げます。もし個別に月次で精算が必要な場合は、予めHJL事務局（福島氏）へお伝えいただけますでしょうか。対応方法を検討いたします。リーグは助成金対応と業務効率化のために、年に2回、前期（4月～7月）と後期（9月～12月）で一括精算としております。助成金対応上、各シリーズごとに書類（承諾書）で提出漏れおよび不備がないことを確認し、個別に金額集計、担当がチェックをした後にお振込みとなります。お支払日は流動的になることが多く、今シーズンの後期は入替戦のアポイントが確定した後、入替戦派遣以外の方々は12月14日に、入替戦に派遣の方々は（提出漏れの方を除いて）12月28日にお振込みとなりました。なお、HJLとしては月次で会計士チェックと年次で監事（弁護士・会計士）の監査を実施しており、不正が起らないようガバナンス体制を整えております。

質問・要望と回答



質問・要望 インドアのルールブックはJHAより案内が出されているでしょうか。

回答 再度全体に周知したいと思います。

質問・要望と回答



質問・要望	競技役員のHPへの記載方法について更新がされてません。
回答	2022年3月31日時点での登録者の方のお名前、所属協会をHPに記載させていただきます。今後はA～C級、UM、TD、TOの方のみと致します。

質問・要望と回答



質問・要望	新登録システムではデジタル証明書を使って選手の確認をする予定との事ですが、スマートフォン等を持っていない場合はどのように対応したらよいか。
回答	証明書のページが印刷することが可能ですので、そちらを印刷して持参していくことになります。

質問・要望と回答



質問・要望	ルールの解釈においては、映像があるとより理解が進むし、関係者への伝達もやりやすいので、映像も提供してもらいたい。
回答	著作権を確認したうえで、今後もできるだけわかりやすくみなさまにお届けするように努めて参ります。今回の研修会での利用映像は下記を参照してください。 https://1drv.ms/f/s!AmlRAmDSWzIWgrtAC_7YFJOV5HJHmQ

フェアプレイで 日本を元気に

あくしゅ、あいさつ、ありがとう



行動としての フェアプレイ

+



フェアプレイ 精神

(フェアな心<魂>)

ルールを守る、審判や対戦相手を尊重する、
全力を尽くす、勝っても驕らず、
負けてもふてくされたりしないなど、
行動に表れるフェアプレイのこと。

スポーツの場面に限らず日常生活の中でも、
自分の考えや行動について善いことか悪いことかを
自分の意志で決められること。
自分自身に問いかけた時に、
臆ずかしくない判断ができる心(魂)のこと。

公益社団法人 日本ホッケー協会 技術委員会

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号 Japan Sport Olympic Square
TEL 03-6812-9200 FAX 03-6812-9210 <http://www.hockey.or.jp>